



# LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN-MADISON

## 邊要分界圖考 = Henyō bunkai zukō. [vol. 4] 1804

Kondō Morishige, 1771-1829

[s.l.]: [s.n.], 1804

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

邊要分界圖考

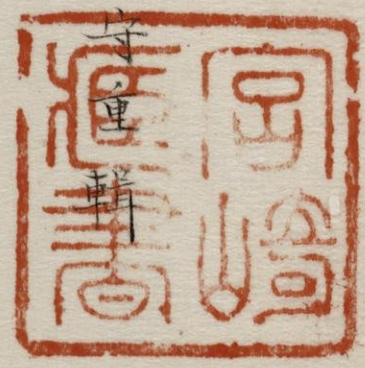
四

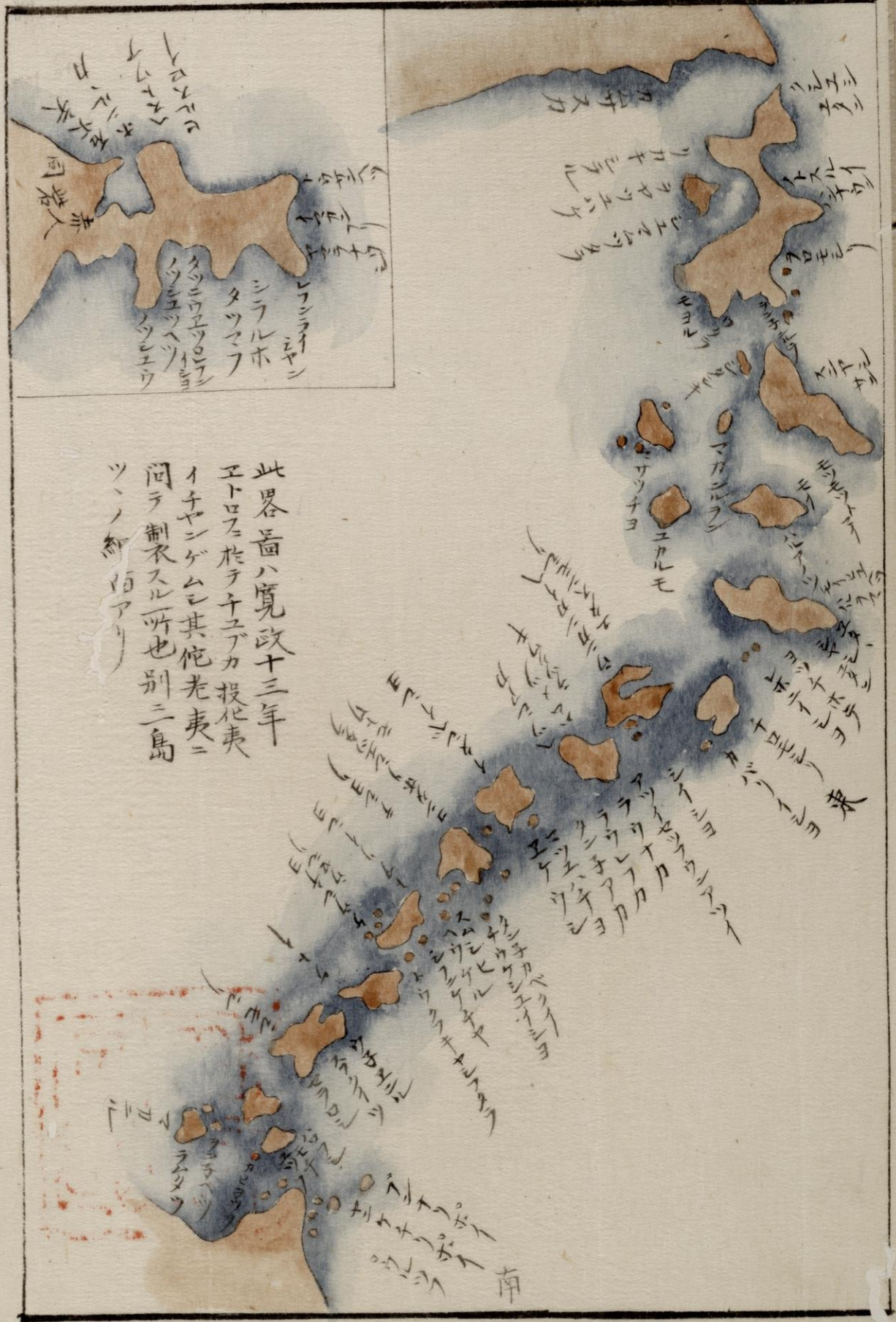
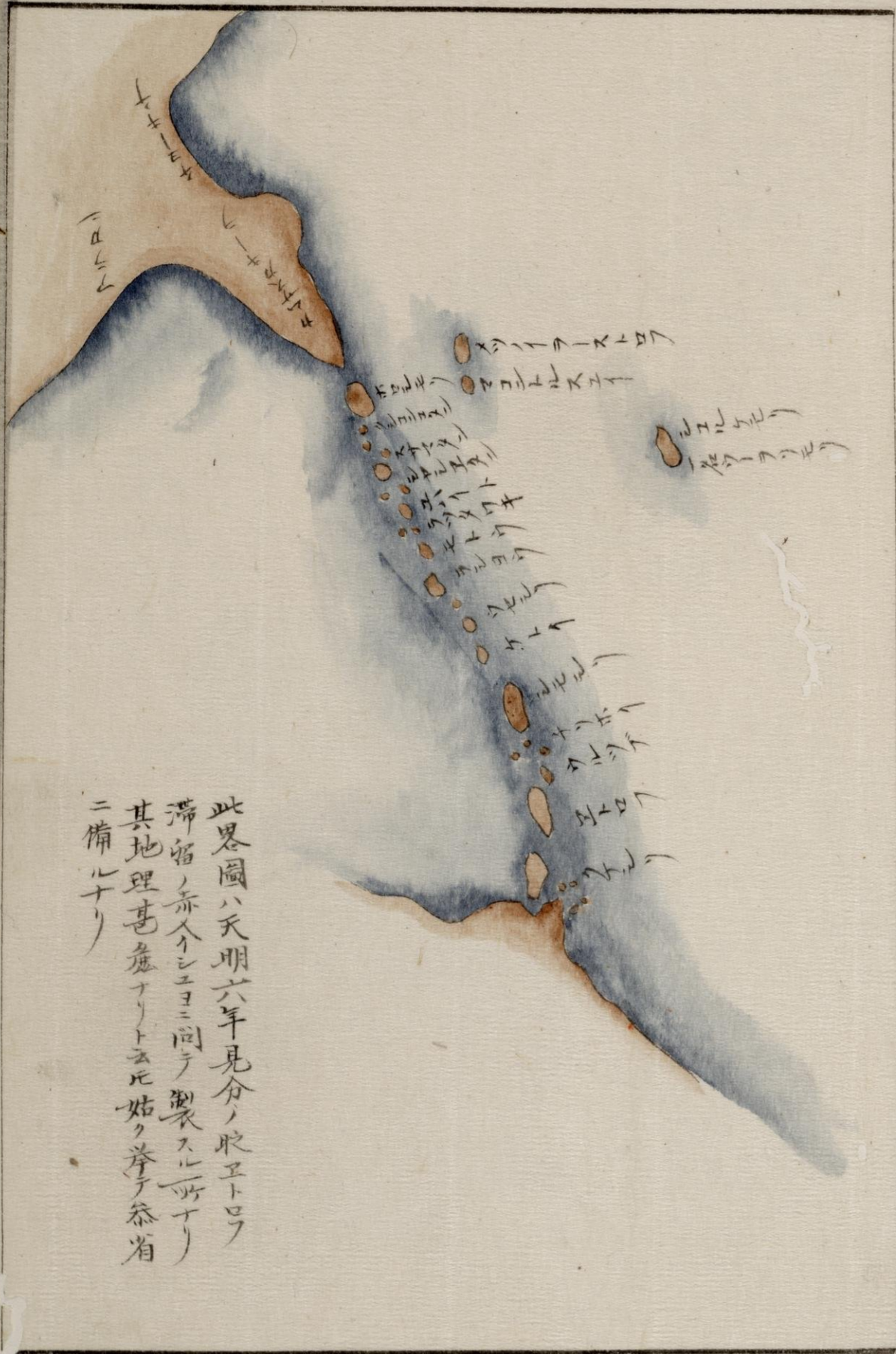


邊要分界圖考卷之四

邾五  
弗フ  
加カ  
圖

近藤





千ユブカ蝦夷人之圖

是ハ此方蝦夷ノ魯西亞風俗ニ化シタルナリ

髪ハ梳テ左右エ分ケ  
末ヲ辨テ後ロニ垂ル



名 イチヤンケムシ  
子 イモニケセツクル  
妻 イナニヤウニマツ

人ニ對シテ拜スルニ男女トモ立テ大指  
人指中指三本ヲ一聚ノ先額ニ當テ  
次ニ胸ニ當テ左ノ肩右ノ肩ト當テ  
後ニ頭ヲウナズテ拜スルナリ

版ハエトセリカト云鳥ノ皮ヲ丸ムキニシタルヲ  
羽ヲ裏ノ方ニシテ幾ツモ綴リ縫ヒ用ユ縁ハ  
黒キ犬ノ毛ヲ皮トモニ小ク切リエトヒリカノ  
嘴ヲ綴リ附ク股引ヲ着ニ靴ハ海豹皮ニ  
テ齒ノ如ク脚半ヲ作り附ニ作ル

按ニロシヤ人ノ言ニ去指ヲ聚ルニ  
大指ヲ我父トシ人指ヲ我子トシ  
中指ヲ我氣トス父ナケハ生セス  
子ナケハ禽歎ニ劣リ氣ナケハ  
死ス故ニ之ヲ以テ佛ニ禱ル是ヲ  
名ケテレスタイト云

鉄炮玉藥ハロシヤ人ヨリ得ル  
所也ト云鉄炮ハ火打仕裁ナリ

童子 頸間ニ裁タルハ  
十文字ノ鉄物ニテ糸  
ヲツケテ頸ヘカケル其ハ  
守リノ由ニテロシヤノ  
教師ヨリ與ル所ナリ  
其右ラケレスタイト云

婦人ノ帽子ハ下地ヲ厚ク頭巾ニ  
拵ヘ其上へ更紗ヲ三角ニ折テ前ニ  
當テ後只廻シテ結ヒ隅ノ端ハ後  
口ハタレヲクナリ



千ユブカ帽子之圖

皮ニテ作ル裏ハ狐皮ナリ  
千ユブカ夷人及魯西巫人  
モ用ユト云



婦人ノ  
帽子



下地ノ如音頭巾ニカタク捲ヘラキ  
上ハ更紗ノ股紗ヲ三隅ニ折テ  
前ヨリウシロヘ廻シ  
結ヒテ隅ノ端ハウシ  
ロヘタレルナリ

エトピリカ鳥之圖

此鳥東ハエトワ嶋ヨリ  
奥島ニ西ハカラフト地ヨリ  
奥ニ多シ大サ鴨ノ如ク羽  
黒ク嘴紅ニシテ美ナリ故ニ  
名クエトハ嘴ヒリカハ美ノ  
夷言ナリ



クルムセ夷人革舟之圖

小舟ノ骨ヲ拵ヘ皮ニテ托ク包ミ  
中着ノロラ拵リタル如クニ身ヲ容レ  
風波ニモ水ノ入ラサルヤウニシテメ  
切ル蝦夷ハトントチツフト云魯西  
亜ハマイタレト云  
蝦夷人云ウルツフ島ニテクルセム  
此舟ニノリ弓矢ヲ以テ鳥ヲ逐ヒ  
ナカラ權ハ左右ニ捨タリ意フニ中ニ  
糸ナトノ仕掛マリテ足ニテ權ヲ動  
スナラシ





四國阿波エ着岸魯西亞人之圖

明和ハ卯年魯西亞  
 人ハシベンゴロウ  
 一名アウスカムサ  
 スカトオホツカノ  
 間ヨリ出船シテ日  
 モシリ島ヲ経テ日  
 本ノ東海ヲ廻リ針  
 路ヲ測リ阿波エ船  
 繫シテ薪水ヲ取リ  
 夫ヨリ琉球大島エ  
 至リテ長崎ノ紅毛  
 加比丹エ書簡ヲ送  
 リ阿波ノ思ヲ謝シ  
 且奥殿夷地松前ノ  
 要害ヲ告ケ越セリ  
 其始末詳ニ本文ニ  
 載ス



此圖本書甚廉ナリ故ニ  
 ソノ容貞服飾ヲ見ルニ  
 足ラ大姑ク本書ノマニ  
 馮スナリ

名イワニエレトイシユサスノスユイ

版ハ表ハ紺木綿ニテ裏ハ黒キ  
 毛皮ニテ附ル肌著ハ白キ縮子エ

白鳥ノ羽ヲ真ニ入レ夫ヲ縮子ノ  
 模様ニ糸ニテ刺シ縫ニシタルモノ  
 ニテホタシハ銀ナリ



ウルツバ島在留魯西平久之圖  
 寛政七八年ノ頃ヨリウルツバ島エ  
 渡来在留今ニ歸ラズ



髪ハウス赤シ眼ハ大  
 ノ目ノ如シ腫子白ク  
 見エ唐木綿ヲ着ス

名  
 ワシレイコンニラブスエタトンケレトフセ

名  
 イワンエレエーイシエサスノスガイ

版ハ表ハ紺木綿ニテ裏ハ  
 黒キ毛皮ニテ拵ヘ縁ハラツコノ  
 皮ニテ附ル肌着ハ白キ綿子ハ白  
 鳥ノ羽ヲ真ニ入レ夫ヲ綸子ノ模様ニ  
 糸ニテ刺シ縫ニシタルモノニテホタテハ銀ヤリ



ウルツブ島在留魯西亞人之番  
 寛政七八年ノ頃ヨリウルツブ島エ渡来  
 在留今ニ歸ラス



髪ハウス赤ニ  
 眼中ハ犬ノ目ノ  
 如シ腫子白ク  
 先エ唐木綿ヲ  
 著ス

名  
 ワシレイコニラアスユズトシケントブセ

長ノ名ハロシモリツアラアダルハンベンゴロウ  
 一名アラヌ



東蝦夷地アツケニ渡来魯西亞人之圖

安永八亥年魯西人交易ヲ乞フ

由ニテアツケシノ内  
チクシユイ迄渡来ス

其更本文ニ詳  
ナリ



名ニシサバクシ

髪ハ白草糸ノス、ケタルガ  
如キ色ナリ 眉毛モ同ニ服  
中ハ茶色ナリ 上着花色羅  
紗 股引白ヒロウド 笠黒ヒロウ  
ト 縁ハラツコ皮ニテ作ル

午ニ更紗ノ巾ヲ持チ  
靴ハ皮ナリ 太刀ハ銀  
ノ鞘 柄ハ皮柄ナリ 鐙  
ナシ

女ノ名

セアンエラシノウリイナ  
ヲニシヤアレキセエワ

顔色至テ白ニ  
テ 桃色ナリ 髪  
ハウス赤ク 眼中ハ  
犬ノ目ノ如シ

子供ノ名

ナタリヤ  
ヘドシヤシ



頭ハ紅ノ切ヲ

如苗被ル上着ハ

猩ニ緋ナリ 唐織ヲ背

ヨリハラリテ前ニテ結フ 袴ハ

白羅紗ニ赤崩黄等ニテ 模様ヲ顯ニス 靴ハ皮ナリ

ウルツフ島魯西亞人  
大筒ヲ打圖

此ハ蝦夷風ノ倉  
ナリ此倉ヲ作テ大  
筒銃炮其外貯ヘ  
置テリ大筒ニ直ニ  
コノ縁ノ上ニテ打  
タルヲ見ルマ、ニ  
圖ス



魯西亞人所持佛像銅板之圖

赤人イシエヨ所持スル  
モノヲ寫ス

唐銅ノ鑄物也  
蝶ツカイ有リ佛  
像ハ硝子ヲ燒キ  
付タル如ク其彩色コト  
コトク細密ナリ





邾弗加考

東海ウルクツブ鳥ヨリ前路ニモシリ島ヨ

リカムサスカ地方ニ至ルマテ凡十余嶋

鳥ニ流ル丑世ノ所謂千鳥ニシテ蝦夷人之

ヲ稱シテ千ユブカト云千ユブカトハ日

出處ト云ノ義ナリ蝦夷人ハ日月ヲ指テ

西亞國主ヲ稱シテ千ユブカト云ト魯

ト云魯西亞吏人ヲ千ユブカト云ト共

ノヤ人諸島ニ來ルト云テナリ一ト云ト

エノ帝王カハムイト尊カ如シト故ニ夷人

明松ヲ投ケ入燒キ奔テ都合十六人ヲ一ニ置キ其後一人二人ツ、村落ノアルニヘ連行キ畠作ノ手傳トス其所ヨリ五日路程先ノ由役人來リ何莫カ吟味シテ歸リ二十日ホト過テ役人十人余リ參リ右ノニノ者ノ内ヲ三人撰テ出シ引連レ日本ノ者トモヲ七馬ニ乗セ三十五日目ニ大キニ廣キニハ着ス此ニ後ニ関ニ韃韃ノ都ノ由奉行ニト覺シキニハ連レ出テ種々吟味アリテ漂人トモ、仕形真似ヲシテ漂流ノ由訴ハ三



西亞ノ風俗トナシ往古ヨリ日本ニ屬  
セシ蝦夷人ヲシテ髮ヲ辮シ帽子ヲ被リ  
股引ヲ用ヒ靴ヲ穿テ鑊炮玉茶ヲ与ヘ魯  
西亞人ノ言ノ使ヒ魯西亞ノ佛ヲ頭ニ掛  
ク魯西亞ヨリ役人並ニ教法師ヲシテ  
師ヲ夷人ハト云ソク、諸島ニ至リ撫順  
ウイニヤムト云ソク、諸島ニ至リ撫順  
セシメ其夷人モ盡ク魯西亞ニ貢シ入ル  
ルニ至ラシメ十年前ヨリウルツブ島ニ  
到リテ土着ニ倣然トシテ去ラサルニ至  
ルカムサスカハクルムセノ国地ニシテ

本我蝦夷ノ種族ナリ其地今魯西亜北海ノ要津トナル嘆スヘキニアラスヤチユ

ブカ諸島ノ地理前輩ノ圖書大抵疎漏少

カラス天明中最上常矩嘗テウルツブ島

ニ至リ魯西亜入イニユコテケタニ邂逅

シテ其大畧ヲ得タリ然レモ未タ其詳ナ

ルヲ得ス寛政十二年守重奉

命シテエトロフ島ヲ按察シ島古来日本

人往キシト更ニ十年前寛政十年守重初テ

此島へ渡リシハ前後日本渡海ノ四度メ

門干翌十一年海路ヲ開十二年山田喜充

ト廻毎ニ乗テクナニリ島ヨリ同島ト是  
 カマイニ着帆シクイトエ會テ立ツ是  
 此島日本ノ船ヲ通シヨリ東魯西亞人建ル  
 ノ家ヲ夕テハニメナリ魯西亞人建ル  
 而ノ十字ヲ倒シ是ヨリマハフロエヤ人  
 苗シ十字ヲ立テ夷人エ法ヲ才ニハ夷人  
 ノ中其佛ヲ受テ其風俗ヲ變スルモ夷人  
 ニ至ルエト口フ島シヤムノ夷人  
 ハウシヒト云モハヤルシヤムノ夷人  
 ナリ其佛ヲ信シ符咒ヲ受セルニ至ル又夷  
 人ノ名ヲ与ヘテホウナニセト改ルモノ  
 ア同島カムイツ、カライニ於テホヲ立  
 テ標トス翌年エト口フ島ヲ新聞ニ魯西  
 亞人授ル而ノ佛ヲ棄シメ魯西亞人變ス  
 ル而ノ風俗ヲ改テ本邦ノ風俗トス口エト

島 閣 以 口 會 羽 七 至 人 へ 果 之 新 弓 部 ル ケ ヨ 寛 所 フ 初 之 之 寛 既  
ノ ト 育 ノ 徳 ル ト ハ ノ 至 七 羽 リ 會 口 来 ニ キ 凡 ハ  
慶 ナ ス 御 中 ヲ 新 弓 部 ル ケ ヨ 寛 所 フ 初 之 之 寛 既  
ト リ ル 徳 北 ニ 井 ラ 落 則 月 リ 文 ト モ テ テ ハ 政 ニ  
云 ニ ノ 化 ア ト 君 引 へ エ ラ 閣 十 ニ 東 開 北 東 十 我  
へ 一 之 ニ 人 地 美 テ 行 ト 経 帆 ニ テ 夷 島 條 都 ニ 版  
ニ 國 十 依 リ 方 此 之 シ ロ テ ニ 年 漁 一 ア ノ ノ 初 國  
時 ラ テ カ ノ 地 ラ ト フ 又 テ 十 場 ニ リ 世 御 テ ニ  
ニ ス 其 ト 諸 ラ 禦 ス 島 百 洋 二 十 ノ ニ 伊 日 入  
千 儀 地 思 州 論 ク レ ナ 余 中 月 七 良 一 豆 威 本 レ  
ユ 然 ラ ビ ナ 之 遂 凡 リ 日 猛 伊 ハ 土 ラ ノ 光 船 ハ  
ブ タ 開 ニ ル テ ニ 許 陸 ニ 風 勢 ケ ト ル ハ 海 ラ 此  
カ ル キ 地 へ 北 行 サ 江 ニ ニ ノ 四 ナ ベ ナ 外 通 ニ  
夷 北 其 モ 之 亞 ュ ス 上 テ 蓬 船 マ リ シ ラ ニ 載  
人 門 夷 今 ト 黒 ト 固 リ 一 テ 志 テ ニ 今 閣 溢 漢 セ  
イ ノ 人 ハ 云 利 ラ ク テ 大 漂 摩 院 ヤ ハ キ ル 場 ス  
千 鎮 ラ 東 ) カ 吹 請 夷 國 院 ) ケ ナ エ 之 ハ 然

通り道筋ニ宿駅ナリ大方ハ山ニ泊リ食物  
ハ馬ニ附ケテ泊リミニテ賄フ也都へ着ス  
ヘキ三日路程前ヨリ道筋モ見へ民家モ  
所ニ在リ人ノ形ハ日本ヨリ大ニテ上下ト  
モニ頭ヲ剃テテヘニニ一寸四方ホト丸ク  
毛ヲ残シ長マトシテ三ツニ組ミヲキ髪ハ  
其儘ヲキテ下髪斗リ剃ルナリ女ノ形ハ髪  
毛ヲ真中ヨリ両方エニツニ分ケ前後引廻  
シハ千巻ノヤウニスル也  
上下トモ頭ニカフリモノヲス冬ハ帽子ヲ

アツケエノ酋長イコトイ及ハツコ其地  
ニバニバ子ユブカ諸嶋工往来経過セル  
夷人ハウニビタカロクイベツケウニ等  
ト再三討論シテ初テ諸島形勢ノ詳カナ  
ルヲ得タリ則番紀ヲ作りテ當取進呈  
ス今其余稿ヲ摘テ加ルニ蠻人ノ説ヲ以  
テニ邦弗加考ヲ作ル

ウルツブ島

此島ウルツブト云魚多キニ  
因テ名クル松前ト云此島ヲ攝  
ス虎島ト云蝦夷人ノ此島ノ  
ス島ハ別ニ北ニ云テ此島ノ

東洋ニ在リ下ニ見ユ此島魯  
西亞人改名ケナラトセナツ  
ワトナイウト云ニ港アリ夷人ハ  
ヤハリシウト云魯西亞人ハ  
ハキシリ北ハコ口ニレト云  
此島今本邦ト魯西亞ト分界ノ地トナレリ

エトロフ島カムイワツカライヨリウルツ

ブ島ヲカイワタラ迄渡海凡千六七里寅二

當ル順風ハ未申ヲ吉トス島ノ周廻凡七八

十里モアルヘシ港泊ハ東辺ハトホ深凡西

辺ハワニナウニ在リ此レ古来ヨリエト口

フクナミリ子モロアツケニ四部ノ夷人ノ

獵虎漁場ニシテ魯西亞人モ古來入會ニ獵  
虎漁セシ六十ナリ然レ此土着ノ夷人ナク夏  
秋ノ間集リ漁スルノニニテ敗トシテ越  
年スルモモアリ魯西亞人ハ古來ヨリ多  
ク此地ニ越年ス三十年前魯西亞人ニ蝦夷  
人ト此島ニ於テ争鬪アリソレヨリ後ニモ  
シリ前路ノ夷人尽ク魯西亞ノ屬トナル寛  
政七年魯西亞人一敗ニ六十人渡東漸ニ  
敗國ニ其中ケ子トノニ其外十七人居残リ  
テ于今此島ニ在苗ニ女三人アリ生ム所ノ



遂く後レテ取りシ一ナク城ヲ攻ルニ七比  
類ナキ働ノミアリ大明ト韃靼ト合戦ノ由  
モ度、手柄アリシ内ニ何地ヤラシ城ヲ攻  
ラレシ片降参ニ出シ者ヲ国王ノ令ヲ用ヒ  
スシテ數萬人ヲ殺シタリ此罪ニ于知行ノ  
内何程ヤラシ上ケラレシ由シイワシス是  
ハキウワシズノ弟ニテ年三十三歳学者ノ  
由シ其外タタタス。トフセイクハ杯ト云  
人、モ歴々ニテ軍功アリシ人、ト由シ  
ホウワシズ鷹野ニ出ラレケルヲ見シニ大

ノ類其山ハカヒラヌブリヨエト見ユフベソス  
ブリアタツヌブリ其周廻ハ西辺ハワカライ  
ヨベリツマデトラ一日路ヨキブトツラチニハツ  
シベリツマデトラ一日路ヨキブトツラチニハツ  
路ツ子ツチマヨテリウ一日路ウツ子ムウコツ  
日路合四日路東辺ハヨリカトイホマデテ一日路  
トツボトイリ迄一日路アタツトイヤイ迄一日路合  
セ三日路ニシテ尽ルナリ但ニウルフ島  
按檢ハ天明六年官初テ吏人ヲ差ニ其山  
最上寛政三年官人吏ヲ差ニ和上某其  
常規  
後松前ヨリ一度人ヲ差ニ享和元年官又

ラニ置テモ盗ムモノナクイカニモイニキ  
ナリ日本人ヲ殺シタルハ遠国辺鄙ニハ  
法度モ聞クケサルヤトテ嚴シク穿鑿ノヤ  
ウスニテ甚立腹ノ由ニ聞ヘタリ

主人ト下人トノ作法親ト子トノ如ク上下  
甚親シム下人ハ皆婦妻ツレ合夫婦トモニ  
扶持スルナリ日本ノ如ク出替リスルナ  
シ五人十人ニ三十人ノヲ仕フモノモ皆如  
是

上下トモニカヲ帶スルナシ一尺五六寸

此島大サナリホイニ同シ獵虎トバ有リ水  
ナシ夷人此島ニ至レハエトビリカ鳥ヲ捉  
テ食料トナシ其骨ヲ焼テ薪トスエトセリ  
カ鳥夥シクシテ内地ノ鮭鱒ノ多カ如シ此  
島モ古来ヨリエトロフ夷人獵虎漁場ナリ

ラツコ島

此島ハエトロフ島ウルツブ島ノ東洋ニ當

レリ晴天ニハ海上遙ニ見ユル一アリ此地  
ハ本タルムセノ夷人ノ島ナリニ近來魯  
西豆人ニ併吞セラレソノ風俗モロシヤニ

吏人ヲ差シ富士山保高俱シ此島ニ於テ魯西

人ニ邂逅スト云

ヤシケチリホイ島嶼西臣人改名セ

ウルツブ島ヨリ渡海凡二十里順風ハ子ヲ

吉トス島ノ周廻一日路ト云港泊ナク巖石

ノ上エ寄りホヲ渡シテ夷舟ヲ楊ケ置ナリ

水ハ一切ニナシ草ノ之生ス魚モ少シ唯エ

トヒルカト云鳥ノ之エトハ夷言ニシテルカハ此嶋ノ美

嘴キニホクヨリテテウツクク影ニク鳥ニテ地ノ見

ヘサルホドニ群飛シ手ヲ以テ容易ニ捉得

ベキホドナリ夷人此島工渡レハ此島ノミヲ  
食料トシ其骨ヲ拾テ薪トス此島ニカムイ  
ワツカト云ヘル泉アリ岩砂ノ間ヨリ僅一  
碗ホトツ、涌出ル色香トモ余ク辛キ酒ノ  
如ク久シク酌シ置ハ甘クナル其側ニテ酒  
ノ一樽スレバ忽チニ水涸レテ又別ノ所へ  
涌出ルナリ酒ヲ醸セシ桶ヲ持テ行キテモ  
泉出ズト云實ニ奇水ナリ魯西匠人此泉ヲ  
名テキヌウトタト云蛮唇ニ云タリルノ諸  
上ラ蝦夷人未テ之ヲ汲テ還ルモ海  
ニ變スルナリ

七八間ツクニヨリ造リテアリ三十五六日  
路ノ間ニ只一日海辺ヲ通ル也小川アレ尾  
舟渡ホドノ川ハナシ北京ヨリ少シ前ノ方  
ニセクチヨト云ハ二町ホトノ川アリ舟渡  
ナリ道中ニ宿、モアリ道筋ノ服ニ大名ノ  
居城イカホドモアリ日本ノ者トモ北京ニ  
往キシハ韃韃ヨリ引越ノ男女三十五六日  
路ホトノ間引モ切ラス通行セシ也  
韃韃ト大明トノ国境ニ石垣ヲ築キ萬里有  
之由ニ高サ十二三間ニ見ユル石ニテハ無

ク瓦様ナル物ニテ高サ三寸四寸ニ重子テ  
漆喰詰ニシテ堅ク滑ラカニ焼物ニ菜ヲカ  
ケタル如ク少シモ損シ見ヘズ往来ノ所ハ  
此石垣ヲ丸クくり又キテ門矢倉ノ立北丸  
キニモ菜ヲカケ瓜モカ、ラ又ホトニ大夫  
ナリ

大明ノ北京ノ城ハ日本道五六里四方程也  
口ニハ石垣ヲ丸クくり板キ上ニ門櫓ヲ立  
廻リニ石火矢ヲ仕掛ケアリ六里四方ノ真  
中ニ二十丁四方程ニ堀ヲ堀廻シ其中ニ宮



トヲ入レ舟ヲ重クスイカナル大浪ニテモ  
鳥ノ浮フカ如ク舟モ人モ波ノ中ヘク、リ  
入テ又浮フテ自在ナリクルムセノ人此舟  
ニ乗り沖ニテ鳥ヲ逐シテ見シガ兩手ニハ  
弓矢ヲ持テ舟ハ櫂ヲ動シタリ思フニ袋ノ  
中ニ糸ナトノ仕掛ケアリテ足ニテ櫂ヲ動  
カセシナラントアツケシ酋長イコトイ并  
イ千ヤンゲムシ云クルムセノ夷人ハトイ  
千セユツ千ヤカムイノ裔ナリ老夷傳ヘ云  
古シ夷地ニトイ千セユツ千ヤカムイト云

モノ有り其身甚短シ皆穴居ス夷地間クル  
ニ從ヒ漸ニ奥地ニ入り遂ニ其種族相率  
ヒテ筏ニ乘リ東洋ノヲツコ島ヘ往キテ其  
部落ヲナセリト又カニヤツケニモタル

ムセノ種類アリ下ニ見ユ

シモシリ島魯西亞人改名セ

此島ウルツブヨリハ少シ小ナリレブン

リホキヨリシモシリ島モヨロエ渡海ス此渡

リノカ路ハエトロフノ渡ヨリハ弱順風ハ弱ト云ハ口シノツノ強シハ弱順風ハ弱酉

ラ吉トス順風上評ナレハ早天ニナリボイ

ヲ發シカヲ冬ニテ舟ヲ行リ黄昏ニシモシ  
リハ着船スト云計ルニ三十里内外モアル  
ヘシ此島ノ前路ニ十本邦屬夷ナリニニ三  
十年前ヨリ魯西亞ニ版後ニソレヨリ二十  
年前以來人悉ク魯西亞ノ風俗ニ變シテ男  
女トモ髮ヲ組ニ帽子ヲ被リ股引靴ヲ着シ  
佛像ヲ掛ク鉄炮ヲ持ツ魯西亞役人モ此  
來ルナリ寛政十年口シマノ役人三人此地  
ノ役替リタルコト、金銀ノ吹キ直ニア内  
地ノ夷人ハ此ヨリ前路ヲ指テチユバカト

云其夷人モ常ニ此辺ニ往来ニテ既ニアツ  
ケシノ酋長イコトイ先祖ハシモシリノ夷  
長ニテウセシリ辺ニモ其親族ナル由ナレ  
比久シク中絶セシニ近来ハ輕物獵席鷲羽  
ノ類ヲ指  
テ輕物少キニ依テイコトイ等ハ此辺マテ  
モウタレ塚来ヲ遣リテ越年サセ獵虎鷲羽  
ヲ取ラスルナリ又シモシリ辺ノ夷人ハ古  
来ウルツブニ於テ内地ヨリ渡海セル夷人  
ト交易ニ輕物ヲ持来リテ夷人ノ宝トスル  
行蓋盃碗鉤鏞小刀古着獺狐皮酒烟艸類ト

交易セシニ今来ハエトロフ開島ヲ聞テ同  
而マテモ来ルナリ此島ノ夷人ハカムサス  
力迄往シモノアリ昔ハシモシリニ夷人多  
カリシカ今ハ甚少シラシヨウ并ウセシリ  
ノ夷人モ冬ハ此地へ来リテ越年シ輕物ヲ  
扱ルナリ獵席玄狐鷲鮭ハナシラシリコマ  
ト云魚ノシ多シ夷人ハ草根ト魚鳥トヲ食  
ス着モノハ鳥ノ羽犬ノ皮又キナト草ヲ編  
テ着モノトス按ニ島貢ニ島夷舟版ト云此  
島ヨリ前路ハ夏中モ尸常ニ居ルナリ島ノ

東南ニ港泊アリ其山ハアニクウニイタニ

キライトトエトタニリナト云ルアリニモニ

リヨリケトイ島エノ渡リハ至テ近ニ半日

ニテ着船スヘニ風順上平ナレハニモニリ

ヨリウセニリ迄モ一日ニ至ルヘシ

ケトヘ島魯西臣人改名ツナツサトイ

小島ナリニモニリ島渡海ハ丑ヲ順風トス

此渡リ以路強ニ英人ハ住セスラニヨワヨ

リ冬中来リテ驚ラ振ルナリ此地獵虎アリ

ウセニリ島

魯西臣人改名  
セテイナツサトイ

ケトイヨリ未ノ風ニ渡ル小島ナリヲエヨ  
ワ迄至テ衆見ユルト云夷人住居ス西辺ニ  
港泊アリ此島驚甚多トビモアリテハ夥  
シク手扱ニナルベシ夏中モ常ニ居ルテノ  
卵ヲ拾ヒ吠ニ入レ三吠四吠モ脊負テ帰ル  
ホトナリ内地ノ夷人云嘗テウルツブ島ニ  
テウセシリノ夷人ノ来リシヲ見シニテノ  
羽ヲ衣ニ拵エ海豹ノ皮ヲ縁ニツケ筒袖縫  
クルニニ仕立着スルキハ頭ヨリ被リテ着  
シ皮ニテ作りシ股引ヲハキ膝マテ掛ル靴

ヲハキ居タリ

ヲシヨウ嶋魯西巫人改名  
テリリーナツサトイ

小島ナリウセシリヨリ午ノ風ニテ渡ル南

ノ方ニ港泊アリ此島夷人住居ス魚類ナシ

鳥ト草根ヲ食ス小島ユヘ氣候ハ至テ寒シ

然レヒウルツフ辺ト違ヒ冬モ氷ハルナ

ニ歳ニヨリ氷流レヨルフアリホハ樺ハ榛

ノ水多シ白キ鷹アリエトヒリカハ口大鴨ハ口

如クコロト云鳥至テ多シ獵虎アリ夷人

ハ皆穴居ス其制穴ヲ堀テ上へ木ヲ梁ニ渡



シ草ヲ蓋テ土ヲ掛ルナリ内ヨリハ階子ヲ  
カケテ出入ス<sub>エトロフ島ニ魯西人穴居</sub>  
ト<sub>穴居セリ</sub>井<sub>投化夷人市助ハ夷名イナヤ</sub>  
ンゲムシ後ニ今名ニ改ム此島ノ産ナリ其  
着スル所ノ衣ハエトヒリカノ鳥ヲ丸ムキ  
ニシテ其皮ヲ羽ヲ内ニシテ幾ツモ綴リ附  
ケ筒袖ニ拵ヘ襟ト袖口ト裾ヘアサラシノ  
皮ヲ細ク附ケ胸ト裾エトヒリカノ嘴ト  
犬ノ皮トヲ文飾ニ附ケ魯西人ヨリ得タリ  
トテ水綿ノ股引ノエルクモノヲハキアザ

ラシノ皮ニテ拵ヘタル靴ヲ穿キ頭ハ髪ヲ  
 左右ヘ分テ髻エリミツウケニ組ミテ其上  
 へ帽子ヲ被ル帽子ハ裏ヲ狐皮テテ作り表  
 ハ皮ナリ是モロシヤヨリ得シ由ニテ鑊炮  
 ヲ持テリ其鉄炮長サ三尺余火打仕掛ナリ  
 磁硝ハ魯西巫人ヨリ得ルト云此島ノ此ノ  
 風俗ニナリタルモ二十年前ヨリノ事ト云  
 嘆スベキノ至リナリ市助ノ子ト云テ六セ  
 歳ナリ市助ハ四十歳余ナリヤト問フニ市  
 ノ風俗ヲ変シタルハ何頃ニヤト問フニ市  
 助若年ノ頃其子ヨリ少シク生長ノ取敷  
 ト魯西巫人ト戦ヒシコトアリソレヨリ後

悉ク口シヤノ風俗ニ其妻イナンシヤウシ  
ナリタリト云マツハシヤシコタンノ産ナリ風俗ハ夫ト  
異ナルヲナシ頭ニ帽子ヲ被リ其上ヲ更紗  
ノ切ニテ包ニ後口エ下ケ鳥皮ノ衣ヲ着シ  
股引ヲハキ唯唇ノ廻リト手エ墨ヲ入レシ  
ハ表婦ノ如シ其子イモンケセツクルハ十  
六歳許リ頗ル穎悟ナリ風俗亦同シ胸間ニ  
十文字ノ鉄物ヲ掛ル是ヲケレスタト云魯  
西亜教師ヨリ与ルニナリト云イナヤンゲ  
ムシ六佛像ヲ所持ス船中雄風ノ照ハ此像

エ祈ル共ニ魯西亞人ヨリ受ル所ナリト云  
父子三人ウルツブ島へ来リ魯西亞人ノ所  
ニ居タリシニエトロフ閑島ヲ閑テエトロ  
フノ酋長ノ舩ヲ搭附シテ寛政十一年授  
化セリ其夷ロシヤ人ノ所ニ從ヒ居シ故ク  
頗ル機智アリ能ク方針ヲ用エル事ヲ知ル  
此島へハカムサスガヨリ魯西亞人年々来  
リ又ヨウロウシイシヤムト云人既々来ル  
ナリヨウロウシイシヤムハ魯西亞人トハ  
風俗モ違ヒ蝦夷ノ如ク髯アリ着類モ別ニ

テ錦金入ノ羽織ノヤウナル綺麗ナルモノ  
ヲ著スナエブカムイノ方ヨリ魯西亜命セ  
ラレシ由ニテ夷人トモ銘ニ残ラス工十文  
字ノ少サキ鉄物ヲ授ケ預ヘ下ゲサス之ヲ  
ケレエタト云是ハ夷人ノ守護ニテ此ケレ  
スタエ祈レハ漁獵モ多クナリ又口シヤ人  
ノ中暴悪ノモノ有レ此ノ鉄ヲ掛クレハ  
殺スナシトテ与ルナリ又夫ナキ女へハ  
ヨウロウシイシヤム媒妁シテ夫ヲ持タセ  
女ノ帽子ヲ与フルナリラシヨク夷人ハ獵

虎皮玄狐皮等ヲ持チカミシヤツケ迄往キ  
魯西亜人へ貢ニ出スナリ但クシユンコタ  
ン迄往キテ同所ノ夷人其皮ヲ受ケ取リテ  
シヨフ夷人一両人乗組カムサスカエ往キ  
クシユンコタンノ夷人ヨリ取次テ魯西亜  
人へ出スナリテエブカノ夷人獵漁スルモ  
ノハ魯西亜人ヨリ鑛炮玉菜ヲ得ルナリ  
鍋ハウルツブニテ交易シテ得斧鑪ハ魯西  
亜人ヨリ得ルニナリ此地ノ夷人チコイチ  
エイト云モノハ魯西亜人ヨリトヤント云

役名ヲ附テチユブカノ島ニヲ支配スアツ  
ケシヘ魯西亞人往シトキ通詞トナリテ往  
シナリ魯西亞ニトヤント云役名アリ又ヤ  
シヤヲルト云役名アリトヤンハ七名ノ如  
クヤシヤヲルハ小使ノ如シ近頃ハトヤン  
ニハチコイチユイヤシヤヲルニハシンイ  
タエリヤナト云夷人アリキ昔内地アツケ  
シノ夷人此地へ来リ魯西亞人ト争鬪シ半  
ハ殺サシ半ハ残リタルヲ魯西亞人ニ服後  
セハ殺スマシトテ悉ク魯西亞ニ從ヒキ又

此地へ春ハシモシリ夷人来リテ草根ヲ取  
リ貯テ糧トスラシヨワヨリモトワ迄ハ早  
天ニ出船シテ晝ハ暮ス夕ハ強シ

モトワ島魯西亜人改名サトイ

小島ニシテ尖山ノミナリラシヨワヨリ渡  
海ハ引汐ニハ午ノ風汐立ニハ未申ノ間ノ  
風ヲ吉トスモトワヨリラツクワキエハ迄  
シ一日ニ往返スヘシ

ラツクワキ島魯西亜人改名サトイ

小島ナリモトワヨリナヲ順風トス北ノ方



ニ港泊アリエハイト迄ハ遠シ早天ニ出帆  
シテ薄暮ニ著船ス汐路強シ

エハイト島

一名コタスンモシリト云夷人住居ス東北  
ノ方ニ港泊アリ又此島ノ東ニ子口モシリ  
ト云アリ至テ小島ナリエハイトヨリシヤ  
シユタン迄近シ一日ニ往返スベシ

シヤシヨタン島

南北ニ港泊アリエハイトヨリ午ノ風ニテ  
渡ル夷人住居ス島中ニ湖アリタトニシタ

リエゲルヒンナト云山アリ投化夷人イテ

ヤンゲムシノ妻ハ此島ノ産ナリ此島ノ産

ナリ此島ノ西北ニエカルマト云小島アリ

ハルヲマコタン島魯西亞人改名  
テエアトイ

小島ナリシヤシコタンヨリハ午ヲ順風ト

ス西ノ方ニ港泊アリ此ヨリヌシヤシコタ

ンヘ一日ニ往返スベシ此島ノ西ニマサワ

子ヨト云小島アリ

スシヤシコタン島魯西亞人改名  
フトロイ

一名ヲン子コタン此島周廻般路二日路モ

アルヘシ夷人住居スシテホグヤシニイ村ハルヲ  
ココタンヨリ未ノ風ニテ渡ル南ト西ニ港  
泊アリ夷人住居ス此ヨリホ口モシリ迄至  
テ遠シ早天ニ出帆黄昏ニ着岸ス汐路ハ中  
ホトヨリハ強カラス此島ノ西ニマカンル  
ウシト云小島アリ

ホ口モシリ嶋魯西イ亜改名

大島ナリウルツブ島ホトモアルベシヌシ  
ヤシコタンヨリ己午ノ風ニテ渡ル南ニ港  
泊アリ夷人ハベツホアルモイニ村ニ住居

ス山シヤシリモリチウチヤリンヂキラブ  
コトナド云ル山アリチヤリンキノ麓ニ湖  
水アリ東ノ方ニ名山アリ山ノ頂左右へ張  
リ出テシモクノ如ク云此ヨリクシユンコ  
タン迄至テ迄ニ互ニ聲ヲ通ズベキホトナ  
リ此西北ニヲヤツコバケト云小島アリベ  
ツボノ南ニヲウテンルモイシヨアワイシ  
ヨト云小嶼アリ

クシユンユタン島

周廻舟路二日モアルヘシモヨロホト云港泊

アリ魯西亜船毎年此處ニ越年ス北ノ海  
濱ニ湖水アリ其側ニ夷人住居ス此ヨリカ  
ムサスガノ南ノ出崎シブンライシヤシ迄  
テ至テ近シ木ノ葉見ユルホドナリ午ノ風  
ニテ渡此邊ニ夷人住居スト云其地今知ベ  
スカラ

カムサスカ地方又カミシヤ  
アツケト云

此地モト蝦夷クルムセノ部落ニシテ我日  
本ノ屬疆ナリシニ正徳五年魯西亜人併吞  
シテ今ハ彼国北海ノ要路トナンリウルツ

ブヨリシモシリヲ歴テ此ニ到テ渡海凡ニ  
百五十余里魯西亜人云凡一千里法ヲ以テ之ヲ  
計レハ二百八十六里余ニ當ル然レ氏蛮書  
ノ圖ニ依テ之ヲ測ルニ凡二百五十里計ニ  
シテ其往來セハ遠ク其渡海ハクシユン  
云ハモハハタ遠クテ此地ノ南ノ出崎レ  
コタンヨリ午ノ風ニテ地方ニ沿  
ブンライシヤシエ渡リソレヨリ  
テ搔キ送り凡四五日ニシテベストワアビ  
ルスコイニ至ルヘストワアヒルスコイハ  
魯西亜人ノ改メ名ルニシテ本トホンル  
ルカト云ヒカムサスカ入海ノ大港泊ナリ

魯西亞人此地ニ營壘ヲ築キ土手ヲ築キ海  
口ノ所、大筒石火矢ヲ備ヘ魯西亞役人一  
人外十六人ホト在留シ穴ヲ掘テ家トナス其  
穴居至テ深ク廣シ梯子ニテ上下ス地上ヨ  
リ之ニ臨メハ其人小兒ノ如ク見ユルホトナ  
リ魯西亞船ハ毎年數度ヲホツカ邊ヨリ徑  
来ニニ艘ツ、此川ニテ越年ス  
クルムセ夷人ハカムサスガ地ニ住居ス其  
地ヲ惣テホンル、カト云今魯西亞人改メ  
名ツケテベストワアビルスイト云守重

嘗テ東夷アツケニ并サルモンベツニ於テ  
其酋長等ノ語ヲ聞テリ云昔シ義経朝臣人  
ハヲキリ云リ弁慶使クルハトシヤマ  
ムイト云リ云地ニ居テカシキトヲシノ嘴ヲ  
イヒラト云地ニ居テカシキトヲシノ嘴ヲ  
聚テ柵トナシ又下武川キロニ井山中エ往  
来セラレシニカニケシイヲツブト云ヘル  
金色ノ羽ノ鷲鳥通リタルヲ見テ相共ニ鳥ヲ  
逐テボンル、カノ国へ至リ玉フト此ボン  
ル、カノ国ノ事老夷ニ問ヘ氏知レサリシ  
ガチユブカ夷人イチヤンゲムシ授化ノ眩



カムサスガ地方ノ一ヲ同タレハカムサス  
ガノ海口モトハボンル、カト云クルムセ  
ノ国ナリ今ハ魯西亜人改メ名テベストワ  
アビルスコイト云ト始テボンル、カノ国  
名ヲ發揮セリクルムセハ本トイテセコツ  
チヤカムイト云ヘル往古蝦夷地ニ居ケル  
一種ノ夷人ノ末裔ニシテ夷地開ケ夷人聚  
ルニシタカワテ奥地へ遁レウツコ島并カ  
ムサスカ地方へ往テ部落ヲナセリ其人物  
ハ蝦夷人ニ異ルコトナク髪眼トモニ黒シ

今皆魯西亞ノ風俗トナル其船ハ皮ヲ以テ  
包ム前ノテツエ島ニ見ヘタリ此皮船ノコ  
ト蝦夷人ハトントテツブト云魯西亞人ノ  
船木ニテ造リ傳馬船ノ如ナルハ蝦夷人ハ  
ロクンドト云魯西亞人ハボロシヨンナイ  
ト云按ニ魯西亞志並東砂葛祀ニ云又一種  
ノ夷人アリタリレルスト云カムシカツト  
ノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ住ム大抵カムシ  
カツトノ人物ニ似タリト云凡此地ノ人ハ  
總身ニ毛ヲ生スルヲ異ナリトス男子ハ唇

ノ正中ノミヲ黥シ女ハ總テ唇ニ黒キ黥ヲ  
ナス男女凡ニ耳ニ銀環ヲ懸ケ肘ヨリ腕ニ  
テノ間ニ種々ノ模様ヲ入墨スルナリ衣服  
居所ハカムニカツトカニ曰シ飲食ハ魚ト  
海獸ヲ食トス妻ヲ多ク具ス其姦ヲ懲ス  
甚嚴ナリ祭ル所ノ神ヲインコウルト云是  
ヲ祭ルニ木ヲウスクケツリヨリカケヲ弊  
ノ如シ蝦夷ノ所謂獸ヲ殺シ皮ヲ取りテ備  
ヘ祭ル内ヲハ食用トス又死スレハ冬ハ雪  
中ニ埋メ夏ハ土中ニ葬ル魯西亞ノカムサ

スカ諸島ヲ併吞蠶食セシテ本邦ノ書記

ニ考ルヲナシ按ニ東砂葛記并魯西亜志ニ

云我明曆寛文ノ頃カ魯西亜ノテヲトツト

云人カムサスガニ漂著シテ僅ニ巡檢シタ

ルヲアリ魯西亜人ノ云云千六百四十

ケリト按ニ千六百四十二年即ソノ国ノ周

圍ヲ廻リ見タリ其ヨリ後ハ誰アリテ此地

ノ事ヲ魯西亜ニ通知セシムル者ナシ然ル

ニコサツカノ人アトラソフト云者此地ノ

要處ヲ見タルヲ多シ則元禄十一年彼国千六百九

十八年

アタテソフ一軍ヲ師ヒコトサワケシ

エカゲリ及コシ一キヨリ此地ヒ至リ土人

ヲ大半服セシメテ元禄十三年彼国千七百七月

本国ニ歸ル其得ベタル心ノ皮三千七

瀬四灰白色ノ狐皮十枚正徳五年彼国千七

再ヒ軍勢ヲ理シコスモスソコロフト云者

ヲシテカムサスカ及ヒ近傍ノ諸島マデモ

伐子後ヘリ其船ハヲホツコイ測ヲホツカ

ツカノ南濱ノ小城ヨリ出帆シテベンシニ

クスノ港ニ入テカムサスカノ北地ニ到ル

又ヲコツコイ海ヨリカムサスカノ城下ニ  
モ著船スルナリ享保十六年彼国十七年カム  
サスカノ人聚ヲ起シテ魯西亞ニ叛ク幾ホ  
トモナクシテ静謐シテ其後永ク服従スヘ  
キ盟約ヲナシ其賦税ハ年毎ニ人ニサベル  
皮ベール獵虜十リ狐等ノ皮一枚ツ、出ス  
ナリ

蛮書セオカラヒイ云一十六百八十九年  
年十二子ルトシキンスコイノ内エルトシキ  
ト云処ニ城ヲ築キ支那ノ境ヲ堅ム此処ニ

関ヲ居ヘテ使幣ヲ交ユ

古韃而鞞ノ 一千七百

十三年

四年德

カムサスガヲ伏従ス一千七百

廿四年

十年保

センスコイニ城ヲ築テ清朝ノ

境ヲ堅メ交易シテ大ニ利ヲ得タリ同年カ

ヒタン某カムサスガ辺ノ島ニ往テ是ヲ領

ス蝦夷人名字ヲ請ニ依テサンクトヲ口ヲ

レンスト云名ヲ与フ一千七百二十年

十年保

年女帝アレナノ此反シ程ナク又従フ是ヨ

リ後女帝ノ命令ニテ清朝ト日本トニ通路

ニテ二国ノ強弱虚實ヲモ試ニ通船交易ノ

莫モ謀ルベシト云又女王アナンナノ命ニテ  
官人ベールヘルヒア和蘭セイカヒクン  
ノ頭トスハレンベルグト氏ニ南日本ノ地  
云下臨ム赤蝦夷カムサスガノ南口シヤ領  
方ニ臨ム赤蝦夷カムサスガノ南口シヤ領  
スル外前路三十四島アリ船ヲ寄セ陸ニ上  
ラント欲レ氏島人サ、ヘテ揚ゲス此岐ク  
ルノ人ヲ船中ニ乗スゲルノ人曰ゲルトハ  
カムサスガノ南崎ノ地名ナリ此ハハ蝦夷  
ニ近シト而テ通弁分リ夫ヨリ善キ島工到  
ル島人慈心アリテ能ク存恤ス此島ヨリ草



木ノ葉ヲ出ス其産ヲ携来リテ与フニ滞留

スルニ更ニ怪ズ亦二人議テ曰シイナ支那則清

トヤツバン日本通路茲ニ在リト決ス

魯西亞本紀ニ云我延享カ元年和蘭ウトレ

スリ前墊意翻譯元文二丁巳年諸臣會議シテ

曰今至ノ廣徳ニ賴テ近隣悉ク皈服シテ繼

横宏達通セサルニ實ニ宇内ノ太平ノ

基ヲ開クト云ヘシ因テ尚クハアルカシゲ

ルヨリ海船ヲ發シ北亞黑利加ノ地方ヨリ

日本及支那ニ至ルマテ遠ク巡察シテ諸外

国ノ方物ヲ交易シテ以テ萬民ヲシテ太平  
ノ化ヲ被ラシメン之ヲ念フニ今此旣ニ  
レリト乃主コレヲ可ナリトシテ遂ニ海船  
ノ正司ベルヒク副司スハツレベルタ  
ノカビタルンユ余メ大船ヲ發セシム是ヨリ  
ヨリ出ルルニ  
初テ都下ノ大高国主ノ許容ヲ蒙リテアル  
カンケルヨリ高船ヲ發シテ既ニ東方ニ到  
ル者アリ彼日本ノ近辺ニ在テ其友人ナル  
船司ヘ贈リタル告文アリ即茲ニ附ス其文

ニ曰

此  
和蘭人

一日大韃靼

即北韃ノ東濱オ

ヨリ出帆

シテカムサスガノ南ニ在ルクリルト云

島ニ到ル此ニ魯西亞ノ戌館アリ吾船中

ニ人ヲ少クテ有ルニ因テ彼館ニ請フ其

主人若干ヲ借テ其ヨリ南ニ行ク海中小

島多シ日本ニ屬シタルモ有ヨシナリ船

ヲ巡ラシテ之ヲ計リ之ルニ凡三十四島

アリ乃一島ニ近キテ碇ヲ下シ茲ニ上テ

ントス島ノ人種ノ器械ヲ以テ之ヲ妨

カ是ニ於テ吾クリルノ人ヲ以テ此処ニ

来ルノ仔細ヲ通セシム島人其證ヲ見シ  
テヲ求ム乃吾コレヲ明ニ示ス役人仍テ  
其更ヲ審ヒシテ後却テ初ノ率尔ナルヲ  
謝シタリ吾更ニ行船ノ備ヲ設ケテ茲ヲ  
去リ又別ノ一島ニ到ル其島人甚好意アリ  
リテ吾徒ヲ島ニ上ラシム此日大韃靼ヲ  
發テヨリ十六日ニ當レリ此島沃土ニシ  
テ諸果本美ナルヲ他ニ異ナリ吾彼果實  
及某余ノ産物ヲモ多ク採テ船中ニ收メ  
置タリ

右ハ日記中ヨリ拔萃スルニシテ即吾  
目撃シタル實點且其產物ヲモ持歸リテ  
以テ究理学ノ一端ニ供セントス此余交  
易ノ一事ハ之ヲ畧ス尚此地ヨリ日本支  
那ニ到リテ將ニ吾魯西亞交易ノ事ヲ圖  
ントスル而已

此記事魯西亞ノ大畜ノ輩漁ク心ヲ用テ之  
ヲ言ベシ即今船司スハツレヘルク等日本  
支那へ通路ノ海洋審ニシテ遠東外國ノ畜  
船吾魯西亞ノモスクソベテルスボルクア

ルカンゲルノ三都會ニ聚リ来ンヲ欲ス  
先主既ニ數百萬ノ財ヲ散シテ四方ノ民悉  
ク聚リ乃魯西亞北地ノ東邊ニ至ルマテ皆  
吾城壘ヲ建置スルニ及ヘリ況ヤ此通商ノ  
事ニ於テハ立トコロニ之ヲ得ヘキガ如シ  
然リト云ヘ凡但宜岐ノ至ルヲ期ベシ

日本人口シヤヘ漂流ノ事

宝曆三酉年一云延享元年トホレ凡天明  
前トアレハ宝曆三ヲ以テ是トスヘキカ又  
一説ニ宝曆十二年ノ頃口シヤヘ漂流人  
アリテ今六人存余シ子アリ其国ヲ  
同ハ松前ト銀クハ傳聞ノ誤ナラン  
奥列

南部領佐井村竹内徳兵衛外十六人千二百  
石積ノ新艘工乗組同年十一月十四日佐井  
ノ湊開帆シテ雄風ニ逢ヒ北方ニ漂流シテ  
赤人ノ國ニ漂著ス徳兵衛力親族勝右工門  
奥戸村伊勢屋安兵衛親類利八大間村長松  
官石湊伊兵衛長助等五人今ニ存生シテ赤  
人ノ國ノ土人トナリ各ニニ住居ス利八  
ハカムサスガ土人日本ノ通詞ビヨト口ト  
云モノ、妹聲トナリ勝右工門ハイルクツ  
コイニ住居シテ赤人ノ國王ヨリ銀錢二百

文ニ抱ヘラレイルクツコイノ有司トナリ  
シニ男子ヲ生メリ此子諸人ニ勝タリケレ  
ハ国王ヲリヘイタラレヨンセイヤト云  
名ヲ賜フ天明三年ニ至リ十七歳ニナリシ  
カ国王ヨリ大船ヲ造ラシメ水主七十四人  
ヲ添テ勝右エ門カ子ヲ船師トシテコロノ  
タラハンエイスカイト云湊ヲ開帆シテ南  
方ニ針路ヲ求メテ帆セ出セリ蝦夷ノ地方  
ニ赴キシカラブト島ニ著シテ土人ノ為メ  
ニ殺サレ船ハ流レテウルツブ島ノアダツ



トイニ漂著シケリ。此ニエトロフ島ノ酋長  
ハツバアイスト云モノ之ヲ見テ船ニ乘リ  
テ見ルニ無疵ノ死骸一ツアリテ外ニ船頭  
水主モ見エス。金銀錢羅紗猩、緋類夥シク  
室船ニ積ミ有シ。エハ盗ミ取り隠シ置キ。其  
船ヲハ燒弃ケリ。然ルニ毎年獵席漁ニ渡来  
スル赤人ノ船遠沖ヨリ幽カニ見ヘテ段々  
間近ク頓テ此島へ着岸トシヘケレハ。此ニ  
ハツバアイスト思ノハ赤人ノ大船燒弃テ船  
中ノ積荷物取隠シタルコト若シ露顯ニ於

テハ船中ノ人モ我等救シタルヤト疑モ掛  
ルベキヤトテ日和ノ善惡ヲモ見定メス周  
章テ蝦夷船九艘ニ乗組百人餘ニテウルツ  
ブ島ヨリ出船シテエトロフ島ニ遁帰ラン  
ト汐ノ急流ヲモ厭ハス大難海ヲ渡リシガ  
折節暴風強ク遂ニ沖中ニテ浪底ニ覆没シ  
テ溺死シタリケル赤人トモハウルツブノ  
島ニ着船シテ其辺ニ遁レ残リタル蝦夷人  
ハ諸向スレハハツハナイスト云モノ當島  
ヘ漂流ノ船中ニ死骸一ツアリテ船主モ十

ケレハ荷物ヲ取隠シ遁去リケル次第具ニ  
告ケレハ赤人は是ヲ聞テ大ニ怒リ此島ハ赤  
人蝦夷兩國入合漁業セシハナレハ急難互  
ニ救フベキニ不法ノ仕方ナリトテ鬱憤ヲ  
含ミケルニ蝦夷双紙

天明二寅年伊勢国白子村神昌丸船主彦兵  
衛船頭幸太夫外十六人乗組同年十二月鳥  
羽出帆駿河沖ニテ難風ニ逢ヒ漂流シ翌卯  
年七月アミシツカ島エ漂着同ハニ四年滞  
留セシニ赤人此島へ獵虎漁ニ来リシ船ア

リ其船ニ使乞シテ同七未年八月カムサス  
 カヘ著船同申年十キリヲ經テヲホツカヘ  
 入津十一月ヤコヲツカエ著寛政元年二  
 月イルコヲツカエ著同三亥年二月ヲ口シ  
 ヤノ城下子テルホルエ著女帝エ謁シ同十  
 一月城下出立同子年九月十三日ヲホツカ  
 出船十月三日東蝦夷地バラサンへ歸著同  
 五日魯西亞船ニ乘テ子モ口エ歸国ス呼津  
 ヤ人來朝ノ始末ハ世ノ人  
 皆知ルトコ也故ニ畧ス

寛政五丑年奥州仙臺領石ノ卷若宮丸船頭

清兵衛外十五人同年十二月難風ニ逢ヒ翌  
年寅五月アワカト云島へ漂著卯年六月口  
シヤノ船ニテヲコウウツカへ著ス文化元  
子年九月六日五人口シヤ船ニ乗テ長崎ニ  
歸國ス

魯西亞始末

魯西亞人ノ事蝦夷ハフーレシヤムト云夷  
言ニフーレハ赤キヲシヤムハ人ノヲナリ故  
ニ松前人之ヲ称シテ赤人ト云又赤蝦夷ト  
云是ハ往歲魯西亞人初テ蝦夷地ニ渡来セ

シ 貳ニ 十 猩、 緋ノ 服ヲ 著セリ 因テ 夷人ニ

ヲ フーン シイ シヤム ト云フ 赤人ノ 蝦夷地ヘ

来ル 丁 記載 ナケシ ハ 其初ハ 知レス 東 蝦夷

来ハ アツケシ 迄廻 船往 来ニ 夷人ト 交易シ

ソレヨリ 前路ハ 通船 十カ 年ニ 前ヨ

前ヨリ 島ヲ 開キ 故ニ 奥地ニ 至リテハ 本邦ノ

人往 来ニ キコトハ 夷人モ 往 来ニ 稀ナレハ 今 蝦夷

ノ 語ル 所ト 松前 人ノ 傳フル 所ト 採録シ

テ 其事 由ヲ 見ルノ 一助トス 一説ニ 寛永 年

ツケシヘ 三 十 人 許リ 渡来ス ト云 疑ベレ 守

重 按ニ 元文 四年 奥州 辺 房州 筋 海上ヘ 異 国

船 見エ 瀨海ノ 毛加 北丹 工ノ 銀錢ヲ 得タリ 長崎ヘ 遣

シ 紅毛 加北 丹工 見セシ ノラレシニ ムス

コヒヤ国ノ文字ナリト云是日本海上へ赤  
人船ノ来リシ初ナルヘシ其後明和八年阿  
波エロシヤ船来レリ詳  
ニ魯西亜ノ卷ニ見エ

三四十年前ウルツフ島ニ於テエトロフ島  
ノ蝦夷及シモシリヨリ前路島ニ夷人一  
同カラ合セ赤人ト争鬪セシフアリ其時ハ  
此方蝦夷人ト討負ケタリ翌年人争鬪アリ  
ケンバ赤人ト討負タリ其後エトロフ島シ  
モシリ前路諸島ノ蝦夷各其在而ノ島ニハ  
帰ケレハ赤人俄ニ襲来シテ盡クシモシリ  
諸島ニ討勝タリソレヨリ以来シモシリ前

路ノ蝦夷残ラス赤人ノウタレ塚来トナル

然レ此ウタレト成リシ迄ニテ其風俗ハ蝦

夷也シカ近比ハ全ク赤人同様ノ俗トナン

リ二十年前以来赤人ヨリシモシリ前路ノ

蝦夷人へ教ヘテ髪ヲ結ハシノ銃炮玉菜ヲ

与へ著類迄モ盡ク赤人ノ風俗トナレリ右

ケ条ハエト口フクナシ  
リノ乙名ノ話ヲ記ス

安永初年獵席島ニ赤人六十人余渡来三ヶ

所へ小屋ヲ掛ケ其小屋ハ長十四五間高サ

五六尺ノ土手ヲ築キ上ニ桁ヲ揚ケ中ニ柱



四五本立テ棟木ヲ渡シ草ヲ以テ葺キ壁ヲ  
塗リ砂ヲカケ小屋ノ内へ床ヲ作り出入ノ  
口ハ三ヶ所ヲ土手四尺ホトニ切開キクル  
リ仕掛ニ板戸ヲ建テ窓ハ三ヶ所ニ明ヶ住  
居スソレヨリ日、ニ海上へ差網ヲシテ朝  
夕小船ヲ以テ掛ケ試ニ網ニ入ル獵虎ハシ  
メ殺シテ又網ヲ張ルナリ赤人云ウルツブ  
ハチコブカムイ 魯西亜國ノ島ナレハ捉ル  
玉ヲ云 所ノ獵席ハ残ラズチエフカムイトノへ出  
スベシ他ニ鬻鬻クヘカフズトエトロフシ名

ハツフアイヌ云此地ハ古来カムイトノ、  
島ナレハ獵虎ハニシハ樵リ人へ出スナリ汝  
等此頃初テ渡来氣随ナリトテ争鬪シ双方  
手負死人少カラス其後イカナル故カ和談  
シテ安永七年赤人初テノツカマツガへ渡  
来セシ氏ハクナシリ島ノ酋長ツキノイ案  
内セリ赤人云国ノ名ヲヒシイヤト云城下  
ノ名ヲムスクハト云濱ノ名ヲカムサスガ  
ト云湊ノ名ヲオホツヒイト云  
安永二三年ノ頃一説ニ安永九年ト云ウルツブ島ニ

テ赤人ト蝦夷人ト争鬪セシ起リハ夷人ノ  
宝トスル太刀ノ類ヲ古木ノ穴へ隠シ置タ  
ルニ赤人ソノ木ヲ伐取り太刀等ヲ見出シ  
奪ヒ取レリ夷人ハ償ヲ取ルヘキトテ言ツ  
ノリ双方争論ニ及ヒ兩三年モ取合双方横  
死ノ者モアリケリ

安永七戌年六月九日東蝦夷地ノツカマツ  
フエ子内モ口 蝦夷船ノ如キ異船二艘ニ異国  
人乗組外水先トシテエト口フ島ノ夷人一  
艘薄暮ニ渡来シ湊近所ニ至リ銃炮ヲ打ツ

蝦夷人トモ驚キ騒キケリ程ナクエト口フ  
ノ夷人上陸シテ全ク争鬪ノ事ニハコレナ  
シ赤人トモ日本人ト對面シタキトテ渡来  
セル由云夫ヨリ赤人トモ上陸シテ濱辺へ  
仮小屋ヲ掛ケ扱赤人ノ通詞セルシモシリ  
島ノ夷人ヲ以テ云ケルハ蝦夷地ニ日本人  
詰合ヨシ兼テ承リ及ニヨリテ對面ノ支願  
ヲ所ナリト頃アツテ夜ニ及フ松前夷人<sub>上</sub>  
從新井日某目附工藤 異国人工對面夜分ハ  
某通詞林右工内  
如何工へ翌朝逢へキナリト答フ赤人再三

願ヒケルハ日本人此ニ誥合フヨシ承及  
ニヨリテ遠海渡来不案内ナル當所工来リ  
之ウヘハ夜中ナリトモ對面ナケレハ安心  
セス是非對面ノコト願フ由強テ訶ルニ依  
テ運上屋工呼寄セ對面セリ則飯小屋工歸  
リ其夜銃炮用意セル赤人四五人其傍ニ夜  
番セルユヘ吏人ヨリ蝦夷人ヘ理不盡ナル  
ヲセザルヤウニ令之テ赤人工ハ安堵シテ  
休息スヘシト云送りケレハ番人ハ引取ケ  
リ翌十日シモシリ通詞夷人ヲ以テ赤人云

ケルハ日本ノ産物ト交易ヲ望ニ少ニ仕入  
ノ荷物手本物持来レリ交易ノ事ハ松前ノ  
所ナリト史人云異国人交易ノ事ハ松前ノ  
指揮ナクテハ成ラサルヲナリ今年ハ畝国  
スベシ明年夏ニ至リエトロフ島ニテ有無  
ノ答スベシトテ早ニ帰帆スルヤウニ云ヤ  
リケレバ十二日ノツカマツフ出帆畝島セ  
リ其貳人ヨリ松前領主へ音物書簡ヲ送  
レリ其書簡音物ハ上乗役松前へ持込レリ  
翌八年夏赤人へ去年ノ返答スベシトテ松

前ヨリ異国人應對ノ吏人ヲ出シケルニ順  
風ナクシテ延着セリ赤人ハエトロフ島ニ

テ待居タリケルカ杰止カ子クナシリ島マ

テ渡来ノ処何タル沙汰モナキヒヨリ又ノ

ツカマツフ迄渡来待居タルガ一切ニ沙汰

ナカリケレハ待兼ケルニヤ漸ニ進来リ

テアツケシノ内ナクシコイ迄渡来セリ松

前吏人ハ赤人志對ノ為撰スルニ浅利某松

右工内林 四月廿九日 松前出帆 南部佐井湊

右工内 入津順風ナクシテ八月四日迄滞船同七

日初テアツケシ著船ノ処赤人トモ待兼テ  
漸、押詰メ来ル由聞之ナクシコイマテ出  
張赤人へ對面セシニ日本産物ト交易ヲ願  
フ由ナリ則吏人ヨリ赤人へ諭シケルハ異  
国交易ノ所ハ長崎一所ニ限り其他ハ国法  
制禁ナルニヨツテ何等ノ願アルトモ叶フ  
ヘカラス以来渡海無用ナリト云聞カセ且  
船中用意飲料トシテ米十五俵酒烟草烟管  
等サシ遣ス赤人ヨリ返礼トシテ上乘三人  
ニ砂糖三包目付二人ニ包相贈リ赤人ハ



直ニ飯船セリ

以上三条ハ天明五年蝦夷地  
請負人飛騨屋十ルモノ書

付ト松前通討林右工門

ノ書付トヲ併セノス

安永八亥年渡来赤人ノ名シンサバクン立頭

タモル者ナリ髪ハ白茅糸ノ煤ケタルカ如ク  
眉毛ハ白シ上著ハ花色羅紗股引白天鷲織

笠黒ヒ口ウト塚ハ獺虎皮ナリ皮ノ工ハ  
靴ヲハノ赤人ハ髪ハ赤白ナリ

テ十日本工通討ノ者ナリヤクツコイノ後人  
花ト緑ハ金系大刀ヲ帯ス銀ノ鞆皮ノ柄鍔

シキシンコンテカムナシヤカノ人ナリ上著  
フデ色リエントンムシヤタ綿下著フデ色木

綿股引メリヤスシリイタリ此ハ蝦夷人通

彼リモノ鼠イロシリイタリ此ハ蝦夷人通

綿股引メリヤスシリイタリ此ハ蝦夷人通

詞ヲス髮黒シ惣体エソ人ニ日シ上着紺色ノ唐木綿下着モヘキ色ノヲシヤ身金ハ十

シ交易ハ羅紗猩、緋棧留奥島更紗皮類茶

種類牛馬鳥獸類砂糖漬何ニテモ好次房交

易トシテ持渡ルベキ由云此一条ハ赤夷聞書ニ出

天明三年年ウルツフ島アクワトイヘ赤人

ノ大船一艘漂着ス内ニ赤人ノ死骸一ツ疵

ヲ被テアリ外ニ金銀錢羅紗猩、緋類夥シ

眨ニエト口フノ夷人ウルツブ居ケルカ此

船中ノ物ヲ盡ク奪ヒ取り船エハ火ヲカケ

テ焼捨タリ松前及南部辺ニ赤人ノ産物種

種出シハ此時ノ事ナリ其跡ニ赤人渡来シ

テ此事ヲ聞キ大ニ怒リケリ此事譚ニ漂流

人ノ條ニ見ユ

此一條ハ最上  
常矩ノ記ヲ載

天明五己年赤人三人エトロフ島エ渡来シ

ヤルシヤト云ハセケ年滞留シ寛政三庚

年本国ヨリ呼ニ来リ故国スト云其長ハ名

シメヲントロヘイイシユブヨフイシユヨ

ト云イルコヲツカノ人ノ由其次ハイワン

エレチーイシユエサスノスコイト云ヲホツ

カノ人ノ由僕一人アリ名ヲニケタト云イ

シユエ云ウルツブヘ赤人多勢渡セシニ船  
中ニテイシユエハ外赤人ヲ手荒クセシユ  
ヘ恨ヲ生シ同船ナリカタク依テエトロフ  
島ヘ逗留ノ由ヲ云フ其後クナシリ迨渡来  
シ其日常矩応對セシニ松前ヨリ長崎ニ至  
ラハ紅毛船ヘ便乞シテ皈國ヲ乞ト云ヘリ  
シヤルシヤムノ家ノ前ヘ宗門ノ十字板ヲ  
立テ夷人工宗門符咒等ヲモ殺ヘタリ又其  
國ノ傳馬証文ノ由ニテ大節ニ而持セリ方  
五六寸ノ紙ヘ横文字ヲ書キ下ニ細キ糸ヲ

輪ニシテ結ヒ目ヲ作り此結目一ツアルト  
ニテ傳馬ノ差別アルト云其糸ノ上へ彼国  
ノ蠟判ヲ押シタリ此證文ヲ持テハイスハ  
ニヤイタリヤ其外ノ諸蛮国へ往キテモ往  
来滞ルヲナシト云へリ後ニ夷人ノ言ヲ聞  
ニ赤人トモ云ケルハイシエエ事數年エト  
口フニ滞留遠キ島ニマテ見究メタリトテ  
国王ヨリ賞セラレタリト云  
エト口フ夷人ハウシヒト云者赤人ノ風ヲ  
学ヒ髮ヲモ長クシ蝦夷人ハ髮  
ヲ切ナリ赤人トハ殊

ニ親シカリシ由ニ寛政戊申ノ年守重エト  
口フニ至リシ眨シヤルシヤムニテハウシ  
ビヲ呼出シ赤人ヨリ何事学ヒタリヤト向  
ケルニ赤人ヨリ佛像ヲ与エ符咒ヲ教ヘ云  
ケルハ此佛像符咒ヲ尊信スレハ漁業モ盛  
ニ雄破船ノ患ナク其外願フトコロ叶ハス  
ト云フナシト其符咒ハ何ト云ヤト向ヒシ  
ニハウシヒ立テ赤人ノ如ク三ツ指ヲ聚メ  
額ト胸ト兩脇ヲ指シヲホツボミホミロイ  
ト云唱エ言フ三度トナヘテ拝シタリテユ

ブカ夷人イテヤンケムシ亦曰シ

天明六年午四月赤人ノ船東海ヨリ来廻リ

松前ト南部津輕ノ瀬戸ヲ西海ニ舩セ出テ

松前ヨリ三里ホト西北エラフ村ノ沖ヨリ

シマコマキ村ノ沖ニ繫ル眩ニ蝦夷人獵船

ニテ出ケレハ手招シテフランスコヘ酒ヲ入

レテ与ヘタリ

寛政八年辰八月東蝦夷地アブタヘイギリ

スノ蛮船一艘蛮人百十人乗ニテ渡来ス武

官ノ内ニ魯西亜人一人アリテ松前人工通

弁セリ

寛政七八年ノ頃赤人ノ大船一艘六十人内  
女三人クルムセノ蝦夷一人乗組カムサス  
カヨリ出船ノ由ニテ同年九月ウルツブ島  
ニ渡来ワニナウト云々上陸シテ家倉ヲ  
作り在任ス初辰年ツツコタンニ住セシカ  
三人死シ己年三月二十八人畝因ス午年五  
月十四人畝因ス残十七人内三人ハ此人数  
ハ死失  
畝因モアリハ今ニ居残り蝦夷人エハ年、  
不定ナリト欺テ更ニ去ラス其赤人ノ頭  
畝因スベシト欺テ更ニ去ラス其赤人ノ頭



タルモノ二人アリマイタラシト云モノハ  
午年畝因ス今ハケ子トブシト云モノ残り  
テ在苗シ赤人ノ子モ出生シテ既ニ五六歳  
ニ及ベルアリ其率ル所ノ夷人モ亦赤人ノ  
風俗ニテ髪ヲ結ヒ鬘ヲ剃ルシモシリ島ノ  
夷人シレイタト云者モ来リテ赤人ノ通詞  
ヲナス銃炮玉薬ハ夥シク貯ヘ置キ十年余  
常ニ用ユレ氏今尚貯ヘアリ赤人ノ内鍛治  
スル者モアリ犬ノ如ニテ毛白リ尾長キ獸  
ヲ持渡リ畜ヒ置タリ其小舟ハ二品アリ一

ハ皮ニテ張り木ニテ骨ヲ入レ用ヒサル片  
ハ木ヲ弛シ皮ヲ疊ム大サハ図合舟ヨリハ  
小ナリ蝦夷ハトントニツブト云赤人ハマ  
イタレト云一ハ木ニテ造ル蝦夷ハロクン  
トト云赤人ハホロシヨンナイト云赤人来  
リシ初アツケシノ乙名イコトイモ此鳥ニ  
越年シ赤人トハ殊ニ親シクイコトイヨリ  
モ赤人ノ国王エ獵虎皮ヲ獻シタリ前ハ  
赤人トモ蝦夷人ヘ對シ格別親ミタルトモ  
ナク又毎度漁場ヲ争ヒシトモアリケルニ

辰年エトロフ蝦夷トモ赤人在留後初テ渡  
海セルキニハ赤人格別ニ夷人ヲ親ニ厚ク  
丁寧ヲ盡シケリエトロフ夷人例年ノ如ク  
ウルツブ渡海セシニ赤人ノ家アリシエヘ  
不審ニ思ヒ沖合ニ踰躑セリ然ルニ赤人小  
舟ニテ出迎酒烟草等飲セ悉ク馳走セリ夫  
ヨリ日、飲食砂糖ナト贈リカタレニ至ル  
マテモ酒食ヲ以テ饗待セリ其上獵漁ノ事  
モ前、ハ常ニ爭論アリケルガ此度ハ然ラ  
ズ蝦夷人トモ獵虎ヲ持往キ賣ラント云尼

日本へ出スへキ産物ナレハ買フベカラス  
輕物ハ日本へ出スへキナト云日、引網ヲ  
以テ漁事シテ其魚ハ半ハ蝦夷人工分チ与  
フ赤人云向後年、日本ノ産物持来テハ彼  
国ヨリモ品、持越交易スベシ蝦夷地ニハ  
日本人モ来リ居ルニヘ日本ノ産物多カル  
ヘシ何品ニテモ持来ルヘシ其内皮類尤望  
ム所ナリ又米ハ格別ニ珍重ト云夷人ヲ見  
ルコトニ日本ノ米ハ所持セスヤト再三向  
フヲナリ米スラ渡スベクハ及物類何ニテ

モ交易スベシト云其赤人ノ名ワシレイコ  
 レニヨフズエズドンケレトブセ長リタル者  
 ツカノ産イエフテヘイワブセン四十イワ  
 五十歳余ンセリヤンノフ三十マクセムカアセンス  
 テハントマセフ四十ミハイヨシクジ子エ  
 ソフミテレイセレエニコフニハイヨシレ  
 イチエフタニハホトフ五十ステバンガザ  
 ンツクウフ三十フミシヤアシキセエワニ  
三イワシンドロヒム三十女二人セナンエ  
 ヲシノヨリイナ三ハ十歳七ヲニシヤブレキセ

エフ三<sup>十</sup>歳ニ女子三人ナタリヤ歳<sup>六</sup>へトシヤ  
ン<sup>四</sup>歳ヲリイナ<sup>二</sup>歳右赤人今ニカルツブ島ニ  
在苗シテ去ラズ

ハンベンゴロウ

明和八卯年阿波ノ海濱ニ異国船漂着シ其  
後琉球国大島へ其船着岸シテ同所ヨリ長  
崎在苗紅毛加比丹工書ヲ送ル阿波ノ太守  
薪水ヲ賜フノ恩義ヲ謝シ且松前蝦夷地ヨ  
リカムサスカ迄ノ要害油断スヘカラサル  
ヲ告ゲ越セシナリ其加比丹ニ送リ工書

ハ其眩長崎ニ於テ通詞シテ譯サシム其文  
下ニ載スハシベンゴウノ事魯西亜ニテ  
名ヲアウスト云元來ボリシヤ國ノ士ナリ  
シガ故アリテモスクワニ囚ハレタリ穎悟  
ニシテ卓量アリシ豪傑ナリ非理ナルヲア  
リテヲホツカトカムサスガトノ間セレホ  
レツコイセカーフカト云ハニ尤遷セラレ  
テ居タリシ眩イワコイロフバセローフト  
云二人ノ宦士ロシヤエノ貢物ヲ積ミ大船  
ニ乘テ此所ニ來ルアウス曰我願クハ蝦夷

及日本ノ東海ヲ廻リ南洋ニ出テ本国ニ皈  
ラント志スニ今昨ヲ得タリトテ狼藉ニ其  
船ヲ奪テ開帆セントスイヲコイロフ大ニ  
怒ルハセローフ曰日本ノ東海ヲ廻ルノ幸望  
ム所ナリトテ共ニ船ヲ出シ南方ニ針路ヲ  
求メ開帆セシガシモシリ島ハ善キ湊アレ  
ハ此ニ船ヲ繫キ薪水ヲ取りタリイッコイ  
ロフハ船ヲ出スヲ肯セス於是大ニ打擲  
シテ砂濱ニ弃置テ出帆ス其後詳ナルヲヲ  
知ラズイッコイロフハ蝦夷人ト共ニシモ



シリヨリカムサスカニ皈ル帝甚心ノ堅キ  
ヲヲ賞スアウスハ日本ノ東海ヲ廻リテ針  
路深淺ヲ測リ四国ノ阿波へ船繫シテ薪水  
ヲ取ル此ニ阿主石子ノ撫郎アリ夫ヨリ阿波  
ヲ出帆シテ琉球国大島へ至リ同所ヨリ長  
寄ノ紅毛加比丹工書ヲ送リテ阿波ノ国主  
ノ恩義ヲ謝シ且日本ノ油断スマシキ由ヲ  
告ゲ越セリ夫ヨリ天竺ノ南洋ヲ廻リアラ  
ニス国ノバテリト云所ニ着船シテアウ  
スハ又其地ニ居ルト云ハセロフハ船師ヲ

率テ本国へ飯リ日本及蝦夷ノ地理南洋ノ  
 方程ヲ言上ス帝ソノ大量ニシテ智謀アル  
 ヲ賞シテ一説ニ丹工戸ス後ニ加比丹長寄工  
 齋来リテ出ストモ云一説ニ安永八庚年長  
 寄渡来ノ紅毛人ト云一國ヨリ其各簡ヲ持  
 来テ国主ニ送ル則江城ニ上達シ長寄ノ通  
 詞ヲシテ訣セシムト此説思クハ非ナリ  
 褒美ヲ賜フト云其頃文字七通アリ則紅毛  
 通詞ヲシテ加比丹へ古メ加比丹タルニイ  
 丹アルムハトウ問ハシメ譯セシム其七通  
 工ルレムハトウ問ハシメ譯セシム其七通  
 ノ内二通ヲ左ニ載ス

ウシマノ人工

下札

ウシマノ人工と申すは、琉球之内  
大島の人と申すは、後子申すは

異由之 八月 上旬 ウシマエ 上階仕居、而及 儀  
渴山 俟仕方 上以 款山 起 多之人 米水 莖菜  
子款 亦未与 亦仕合 亦好山 寔 亦好 亦漂 亦存  
太返 礼若 送山 亦我 亦山 亦西 亦人 情亦 亦  
亦思 亦致 亦難 亦謝 亦亦

ば 亦人 亦山 亦河 亦河 亦なる 亦ん 亦ん

ご 亦う

長崎 亦子 亦り 阿茶 院 亦子 亦乃 亦我 亦亦 亦頭 亦役 亦人 亦



と入の事はお少の此等之地を赤道以北に

拾壹度三十八分二測量と記の也 赤道以北  
曰十一度

二十八分二測量と記の也 中候と数と  
量相希辺を記の也中候と云はる也 加む

志加つてうゝ近所クルリイ又と申の請へ

クルリイストト中の島を阿蒙陀と繪島西  
と調べ中の島共何方と中候と知ふ所の也

と築子武具等を込垂の件に次方ホーゴエーテ

レンスと對し ホーコエーテレンストトの中  
紅毛島政令ノ人ノ子と生る 柳茂不隠

通告知せ候、候に如是書と通し候事元來後

おル不固之族等捕ふ、今交子信と云し

候と以朋友子成候以候希い且工ヲ口ツ

ハ之人物小ハ友之り小私之貴邦ハ船を  
出之其害を防ぎ陸一カト海を告報ハ

千七百七十一年エークイサ日

守重云千七百七十一  
年ハ則明和八年當  
ルナリ

ウシマニおいこ

ば詠ん之るる何らなるん為ん詠う

一 繪巻之如詠ノ者之いさかむかつそく海邊

繪圖ニ及之者之式出之平道書よかむ志うつそ

繪巻海邊中ありし

一 興島へ来た處かむ志あつてかゝる圖を扱  
きしゆを主として用ゐる事

カムサス力地方

一カムシカツトカ  
一カミシヤツケ

東砂葛記及魯西亞志ニ云カムサスガハ魯

西亞ノ属国ニシテ彼国イルクツカト云大

地ニ属セル七国ノ一ナリ彼国東方ニヘリ

クツカト云地アリ其地ニ大河アリカムシ

カツトカト云其源北極五十四度ノ辺ヨリ

流レテ五十六度半ニテ大東洋ニ注ク故ニ

其地ニ名ケタルナリ日本ニテ古ヘ奥蝦夷  
ト稱セシ地ナリ此地イルソツカノ東辺ノ  
地ヨリ長ク指出テ南西北長サ二百四十里  
ソノ南ノ崎ヲクリルスカヤロハ千カト名  
ク則セタルム五十一度半ニ當ル此地ハ山甚  
多クシテ然モ石山ニテ不毛ノ地ナリ中ニ  
三ノ大山アリ頂ヨリ常ニ烟ヲ吐キ又眩ニ  
焰ヲ出シ灰ヲ降ス一ハアワシレスカヤ  
キユルシンスカヤ一ハカムシカワトカト  
云此山第一ノ高山ナリ毎年二三度ツ、灰



ヲ噴出ス元文二年三千七百大ニ燒出テ石及  
ニ種々ノ硝子ノ如キモノヲ吹き出セシ  
アリ又温泉極テ多シソノ水常ニ沸騰シテ  
鳴リ響音クアリ其傍ニテ人声ヲアゲテ呼レ  
ハ濃キ烟ヲ起シテ三四丈モ隔リタル処ハ  
見ヘサルヤウニ成モアリ其水面ニ黒キ沸  
沫アリテ乎ナトニ附テハ洗テモ落カタシ  
是地油ノ類ナルベシ越後ノ地震ツナミ海嘯ハ度々ア  
リ大山ノアタリハ別テツヨシ氣候ハ一年  
ノ内八月ハ冬ノ如シ南ノ方ハ常ニ雪ノ深

サ一丈余北ノ方ハ却テ雪ナシ夏ノ氣候ハ  
其如シ故ニ五穀ハ生セス但子トテルホル  
ルトカムンカツトハ畑ヲモ作ルナリ雷ハ  
甚稀トリ國人ヲカムサスガゲルスト云是  
數百年前蒙古國ヨリ其人衆ヲ置タリ其人  
アムルト云川支那呼モノ也ヨリ渡リテ処  
処ニ住居ヲ構ヘテ散在スルナリ其人物甚  
長大ナラス色ハ赤黒ク髮ノ色黒シテ惣テ  
面濶ク鼻尖リ目深ク眉ウスシ垂タル腹廣  
ク肩手脚ハ瘦タリ皆沿海ノ一ニスムソノ

飲食ハキツメテ穢シ藜タル狗ノ物クヒタ  
ル器ヲソノマ、拭ヒ清ムルヲモセスニ用  
ユルナリ居ルハ上ヲ四五尺堀テソノ上ニ  
柱四本ヲテ屋根ヲ造リ土或ハ草ニテヲホ  
フ上ニ四角ナル穴ヲ穿テ烟出シ明リトリ  
出入口ニカ子用ユルナリ漁獵ノミヲ業ト  
ス衣服ハ諸ノ獸皮ヲ以テ綴リ接テ用ユ家  
具ハ石又鯨ノ骨獸ノ角等ヲ以テ木ヲホリ  
凹ノ皿鉢ノコトクニナシテ用ユルナリ魯  
西亞ヨリ来ル外ハ銅鍍ノ器ヲ用ユルヲ見

ズ、犬ヲ多ク養テ牛馬ノ如ク使フ雪中ニ氷上ヲ  
舟ニテ行クニ之ヲ用テ牽シムルナリ妻ヲ  
ハ何レモ二三人ツ、持ナリ子ヲ産テ若シ  
孖生ナレバソノ一ツヲ殺ス以前ハ上人尤  
モ野鄙愚陋ナリシガ魯西亞ニ服従シテ後  
寛保元年千七百四ヨリ女帝ノ命ニテ天教  
ノ會士等ヲ遣シ按ニ千ユフカ夷人ノモ謂  
ベシ土人ヲ教道セシムルニヨリ教化モ行  
ハレテ道理モ聞ケタレハ遠カラズ善良ノ  
民トナルベシ又一種ノ夷人アリクリレズ

ト云カムシカトカノ南ノ出崎及南ノ諸島

ニ住ナリ以ク上レト口ノ我ノ真蝦夷ノ風土ト

符合ス故ニ物ヲ引スルヲ未聞ズカラフト符ニテ犬ニ物ヲ引スルヲ未聞ズカラフト諸島

ノ地方ハ皆カムシカツトカニ魯西亞ノ小

城五座アリ一ヲホルスケツコイト云ボ

ルスカヤト云大河ノ側ニアリベシシンス

カヤノ海湾ヲ去ル一三十三ウエルステン

一ウニルステン三五百八十分三ウエルタル

六分日本一城ノ大サ四方四十九丈オコツ

ユイ通商ノ船先ツ此地ニ来リ集リ故ニ甚

繁盛ナル地ナリニヲヲツブルホルトカム  
シカツトカト云五ヶ所ノ内此城尤右シカ  
ムシカフトカ河源ヲ去ル一六十九ウエル  
ステンホルスケレツコイノ北二百四十二  
ウエルステンニ在リ倉廩武庫ヲ設ク三ヲ  
子一テルホルトカムシカツトカト云ヲツ  
ブルホルトノ即位三百九十七ウエルステ  
ンカムシカツト河口ヲ去ル一三十一ウエル  
ステン城ノ廣サ方二十八丈周リ二本柵ヲ  
構テ四ヲアツフカト云元文五年四月十七日二

建ツアツフカ河ノ港口ニ在リ守重云今長

魯西亞ノ漂民仙臺石卷若宮丸船頭清兵衛

其外口シヤヨリ差越セル書状ニアツカト

云ハ工著トアルモ疑五ヲテキルト云近頃

建タル城ナリテキル河辺ニ在リ

カムシカツトカノ属島極テ多シ著キモノ

ヲ左ニ挙ク

クリルノ諸島ハカムシカツトノ南ノ崎ヨ

リ南西ノ方ニ連綿シテ散在ス著シキモノ

二十五島アリ一二三其瑣々タルモノ敷ク

知ラスカムシカツトカニ近キハミナ魯西

亞ニ後へトモ遠ハ別ニ屬スルニアルベシ  
或云此諸島ノカムシカツトカノ方ヨリ初ト  
シテ口シヤノ言ヲ以テ第一島ノ第二島ト次  
ヲ逐テ名ヲ此諸島ノ人クリルノ人ト互ニ  
交易ヲナス日本ノ人モ之ニ加ルナリウル  
ツへ島ナルベシロフウルベ此二島口シヤニ  
モ屬セズ但交易ヲ通スルノミナリフラン  
ト子テルニテカラムナリノ如布ヲ製シ日本  
ノ絹木綿鉄器等ト交易スルナリ此島ノ東  
南ニクナシリト云蝦夷ニ屬シタル島アリ  
又マツマエト云大島アリ日本ト一線ノ海



路アリテ之ヲ隔ツ此島既ニ日本ニ從ヘリ  
クナシリノ人ニ之ヲ審ニスルニ此海路ノ  
隔テルヲ云ヘリ此島南北凡六百里アリ

日本人エソト名ク

子ルレンスキハ黑竜江ノ岸ニアリ北極五  
十二度ノ地ナリ千六百八十九年ニ元祿城郭  
ヲ築キ支那ト疆ヲ固メ此地ヨリ北京ト交  
礼ノ使節ヲ通ス

和蘭全世界地圖書

譯ニ云

此書寛政年間船  
來タルニ圖ナ

ルベシ紅毛通詞本  
仁太夫ナル者譚記

一ノ符号ノ横文字ノ

文ニ云此地番ハリコスラント国ヤ則ナロリノ  
閣老ノ筆記役ヨハシ子スケイリロウト云  
シモノ一千七百三十四年ニ當テ出シ与フ  
ル地番ニ從テ正補シタル地圖ナリ船主ス  
バンベルゲト云シ者カムシカツトノ地ヨ  
リ船ヲ乗タル説ヲ記録ス三ノ符号ノ横文  
字ノ文ニ云去ル土曜日ニ當テカムシコツ  
トノ地ノ説ヲ記シテ此地ニ飛脚一人参著  
セシナリ船主スハンベルゲト云シ者カム  
シカツトノ地ヨリ大船四艘ヲ以テ海ニ浮

三十六日海路ヲ乘リ大小ノ島三十四島ヲ  
見開キ彼レ陸ニ至ラント思ヒ小船ヲ六艘  
造リテ之ニ乘リ彼地ヲ見開シガ為ニ人ヲ  
至ラシム土人叮嚀ニ應對ス言語ヲナス  
能ハサレ且錢ヲ見セシハ船主ノ上ニ裁配  
ノ人ニヘヤリシキト云シ人アリ彼レニ此  
事ヲ知ラシメズシテ船主自ラ彼ノ地ニ至  
ラントヲ議シ船主カ大君ノ重ニ一事ナル  
故ニ人ニ知ラシメス彼カ利欲ニシテ已カ  
大君ノ事ニ披露セントヲ思ヘリ是ニ因テ

裁配ノ人謀ヲ成シ彼ノ地ニ至リテ春ヲ歷  
タリ意フニ日本ノ島ナランカ彼ノ地ヨリ  
持来リシ一紋ノ小銅錢大サ和蘭錢ノ如シ  
シテサク厚ク平ニメ周郭高シ巾ニ方孔ア  
リ其方孔各方ノ傍ト線トノ間ニ一面ニハ  
文字アリ日本ノ文字或ハ支那ノ文字ナラ  
ンカ一面ハ無字ナリシントベトテルスヒ  
ルクノ地一十七百四十年正月十三日

蛮書ニ云  
萬國傳信紀事トルコ  
云モノ  
テ  
別里亞此地極テ廣大ニシテ  
沙漠ヨリ北ノ  
王国西

方氷海一傍其東ハ東方ノ大洋ニ至リ蝦  
夷ノ東北カムシカツトカニ至ルマテ皆此  
部内ニ隸セリ

蝦夷獲紙ニ云魯西亞人イシエエ云カムサ  
スカイ北ニ千ヨウキナト云因アリ北極六  
十度ニ及フト云蝦夷ヒモアラズ魯西亞ニ  
モアラズ国主モナカリシカ迄来魯西亞ヨ  
リ服従セシメ国ノ名ヲ改テアナカデルス  
コイト云此国ニ大河アリアナテリト云因  
テ名トスコレニト云獸アリ此国ヨリ北ハ

小島ツ、キニテ四眩亦海ナレハ通航スル

十能ズ北極六十余度ニ及フト云此国ノ人

山獵ヲ業トス守重按ハカ魯西亞志ニ云アナ

北ニアリク又云アトトイルマス峯ノ東ヨリ大東

洋ニ往ク又云アトトイルマス峯ノ東ヨリ大東

地ナリ此ナシル河岸ニアリ北極六十度ノ

地ノ尽頭ニ大ナル地アリ之ヲカムニカワト云

魯西亜聞畧イニユサスノ記云ヲ口

シヤノ国南ハ韃靼清朝天竺ヲ境トス清

朝ノ方ハアモルト云大河ヲ国境トシテ魯  
齋亞ノ国内セハツクト云云ヨリ兩國ノ交

易アリ此処ヨリ北京へ近シ本國ヲモスリ  
ワト云ベテルホルイリコーツケイヨコツ  
カヲホツカカムサスカ。チヨウキ子等ノ地  
アリヲホツカカムサスカハ東北ノ海濱寒  
国ニテ穀類ナシ。イリコーツカ辺ヨリ飯糧運  
送ス産物皮類多シ此処ヨリ東北ノ諸島へ  
獵船ヲ出スウルツブ島へモ十六ヶ年ホト  
以来獵ノタメ年々来ルヲホツカハ守護一  
人下役四十人小役二百二十人イリコツケ  
ヨリノ勤者六十人當垣守護人ノ名イワン

ビヨウドロイシヨヘシゲン。カムサスカハ  
 奥蝦夷ノ島ト近シ守護一人下役二十人小  
 役百人余當時守護人ノ名フランスイノヨ  
 リニギン其里程ハウクルツフリ島マテリ海路五  
 百五十ウヘルスク此里数百五十里  
 マテスカ海路八百ウエルスク此里数二百二  
 ニ寸ヲ五百合シテ一ウエルスク里余曲尺七尺  
 ヘルスタヲ一ミ一ト云是ハ海路ヲ積ル  
法ナクテ陸路ハ積也  
 唐國ノ境ニセワフタト云処アリアモルト  
 云大河ニ境トシテ北京ト交易ヲ為ス兩國



ヨリ番所ヲ立テ境ヲ守ル北京ノ交易ヲ直

改荒マシ下ノ如シ獵虎皮一枚代組木綿百五十枚豹皮一枚代同百五十枚白

皮一枚代同狐皮一枚代同三枚豹皮一枚代同二枚白

海豹皮一枚代同日本ノ事聞及ヒタルヤト

向フニ長崎ト云所アリテ紅毛イスバニヤ

ノ人年々来テ交易ス其人又ロシヤエ来

ルモノアリ故ニ詳ニ聞及タリト云

一書云最上帝赤人イシユヨノ記スル所渡

海ノ里程左ノ如シノツカマツブトクナシ

リノ渡六十里六十ニサ四丁ナリ即クナシリトエ

トロフノ渡 即二十五里ニエタルスタ エトロフトウ

ルツブノ渡 即十五里ニエタルスタ ウルツブ徑五百

一里ニスタ即四十ウルツソト千リボイノ

渡 即三十里ニスタ千リホイノ間 即二十五里

四十千リホイトシモシリノ渡 即二十里ニスタ

十八シモシリトカムサスガノ渡 即九百スタ即ニ

百五カムサスガトヲホツカノ渡 即九百スタ即ニ

ラシモシリトヲホツカノ渡 即九百スタ即ニ

云シモシリ前路カムサスカ 迤ノ里程諸記

ニ云ハ大月小異ナリ今別ニ 说ヲ不作其大

ル畧ヲ見

魯西亜紀聞云

王子聘使アコロムフラクスマス

ハヒコシウ三人ノ話ヲカミシヤウカ家數

百四五十軒代官在テ守ル大川アリ船ハ川

ノ内工入レ置クヨキ澗泊アリカヨリヤツ

里數凡ク千四百里上ヨリ千キリ迄三百七

十里山越路ナリ家數凡二百軒代官アリチ

キリヨリヲホツカ迄海上里數凡八百里代

代アリ大船川へ入ル湊ハ海底砂ニテ浅シ

故ニ沙満ルヲ窺ヒ船ヲ入ル、ナリ陸ヨリ

二百間斗沖ニ右ノ砂瀨戸アリ外ニ澗泊モ

アリ戸敷凡二百軒余同所ヨリヤコーツカ  
迄山越路凡千十三里代官アリ戸敷凡五百  
軒此地晝夜朦朧トシテ明ナリ然レモ暮ニ  
至テハ少シ暗シヤコーツカヨリイルコー  
ツカ迄里敷凡千四百八十六里川ヲ沿フル  
中三百五十里ハ旅館アリ戸敷凡二千百六  
十軒代官アリカミシヤツカ。チキリヲホ  
ツカヤコーツカ等ノ代官ハ皆當ニ代官配下  
ナリ同所ヨリ魯西亜ノ都ベテルホル迄凡  
五千八百二十三里古都ニスクワヨリ今ノ

都へ五十一里

日本一里ハヲロシヤノ三  
日本一里ハヲロシヤノ三

間イルコウツカヨリ満州ニト仔コ迄凡四

百五十里大川アリ西国ノ境トス川ノ名ヲ

エレカアモトロト云黒竜江ノヲナリ支那

ヲキタエスコイト云支那ノ都ヲヘキン云

王ヲバント云サバンノ島周廻凡七百里支

那ノ夷ケレヤスト云者居ルヲホーツカへ阿蘭

陀人六人住居スルト云イルコウツカヤコウ

ツカ成ニ雪ヲラス寒気ハ至テ甚ト云ヲ口

シヤ人冬ハ雪櫃ニ乘リテ往來ス櫃ハ犬ニ

ヒカセルナリ犬ハ皆尾ト陰囊ヲ切ル馬モ  
陰囊ヲ切ルナリ如此スレハ精氣衰ヘズシ  
テ強シ陰囊ヲ切玉ヲ取り捨テ其アトヘ塩  
ヲ入テ縫トナリアメリカ人ハ鼻工穴ヲ通  
シテ牛ノ鼻クリノ如クシテ骨ニテ牙ノ如  
ク捲工其穴工通シテ下ヘ垂ル下唇ヘモ穴  
ヲ通シ骨ニテ牙ヲ捲ヘ下置其人此度兩人  
来レリ守重云蛮唇ニウエホフニ北アメ  
リカノ人頬ニ牙ヲ通セシ番アリ  
ミシイツカノ女下唇ニ穴ヲ通シ骨ニテ牙  
ヲ捲工其穴工通シ下ヘ垂ル惣身文ニス

ヲ口シヤ国ハホ一ツカヨリ松前ノ東夷  
子ム口迄海上里數凡千九百里

邊要分界圖考卷之四終

5

42

15